「高校選抜大会(仮称)を検討」「復活したい強化対策委」

荒川理事長に今後の方針を聞く

オリンピック競技に定着して以来、日本ハンドボール界は「4年」を一つの区切りとして動いている感じだ。

モントリオールオリンピックから、はや二カ月。

新しい点に立った日本協会の今後を、荒川清美理事長に聞いてみた。

――はじめに「モントリオール」をどう評価するか。

荒川理事長 男女とも、ヨーロッパの強豪に対して対応動作ができるところまでいった、という点で成果を認めていい。

日本も大型化しているが、外国の大型選手と対抗した時、まだ見劣りがする。

身体が大きいのは、国内試合では確かに有利だが、対外試合で互角になるまでには時日がかかりそうだ。なにがなんでも大きければという考えを検討すべきだ。

――今後の頂点強化対策の腹案は

理事長 強化策を含めて、今後の方針は、11月、全国代議員会を招集、そこで明きらかにし検討を加えてもらうつもりだが、少くともナショナルチームの強化は、ミュンヘン前のような専門委員会で進めることとしたい。

――「選手強化対策委員会」の復活か

理事長 そうだ。長期的な展望や、科学的データの蓄積、ジュニア問題など多彩な活動を受け持たせたい。

――「モスクワ」への強い第一歩となるわけだが人事などは

理事長 人事はいっさい白紙である。また「モスクワ、モスクワ」というが、オリンピックへの男女参加とメダル策戦が協会にとって〃最高〃の目標かというとそうではないと思う。

――それは、どういう意味か

理事長 モントリオールに対しては、ともかく男女参加を目標とし、極端にいえば、他のことを〃犠牲〃にしてまで進めてきた。

日本協会として、今後もそれでよいのか、見つめなおすべきだと考える。

特に、国際舞台での活動は、国内基盤の確立なくしては成り立たないし、仮に出来たとしても底の浅いものだ。

一握りのナショナルを強化することが先か、ハンドボールの根をもういちど地につけなおす活動を重点とするか、問いなおしたい。

――「ともかくオリンピック」としていたこれまでの流れからすれば変換ともとれる発言だが、かねて伝えられている球界総点検を意味するのか

理事長 その時期だと思う。具体的には執行部内機構の修正や、新しく若い人材の登用などフレッシュな感覚を求めることになろう特に専門委員会の拡充を心がけたい。

常務理事会も、担当パートの〃利益代表〃の集りではなく、協会全体、球界全体の前進について討論する場としていっそう充実させたい。常務理事の自覚を望んでいる。

――新発足の日本リーグは

理事長 今回は準備不足な点もあったようだが、地方組織を確立させるには、大いに役立ったと思う。

将来は、日本リーグの勝者が、日本選手権チームになるべきである。

――新しい事業も当然考えられていると思うが

理事長 普及指導部の「土曜の集い」を全国的に拡げたい。大会としては、全国高校選抜大会実現を検討する。これは高体連側となお調整が必要だが、早ければ来年3月に第1回大会を開くつもりである。

――高校選抜大会(仮)は動き出しているのか、あと半年しかないが

理事長 とりあえず男女各10チーム程度で開きたいが、出場チームの決定(予選)など課題も多い。

――大課題という〃財源〃問題の打開は

理事長 残念ながら明かるい見通しはない。選手強化にしても自己資金がなければ交付されないだろう。

52年度事業の提出を10月とし、年内に新年度予算を決めるつもりで作業しているが…。

事業縮少を真けんに考えなければなるまい。深刻だ。

――田村会長が今年2月の全国会議(代議員会、理事会)で、辞意を表明されたようだが、

理事長、今期(昭和52年3月まで)限りで退任されるという意志が固い。後任については、田村会長にも加わっていただき協議したい。

(9月21日・東京で)

「ハンドボール」

51年10月号(第146号)目次

【表紙写真】日本リーグ開幕を飾った女子・立石電機対日本ビクター戦、立石の攻撃
(撮影・山田真市)

日本ハンドボールリーグ各地わかす熱戦

〔男子〕	大	湧	本	三	崎	イ	日	陽
大同特殊鋼	…	△	○	○	○	○	○	○
湧永薬品	△	…	○			○	○	○
本田技研鈴鹿	●	●	…	△	○	○	○	○
三景	●		△	…	○		○	○
大崎電気	●		●	●	…		○	○
大阪イーグルス	●	●	●			…	○	○
日新製鋼呉	●	●	●	●	●	●	…	○
三陽商会	●	●	●	●	●	●	●	…

～第4週第3日まで～

内外注視のうちに9月4日開幕した第1回日本ハンドボールリーグは23日までに男子24試合，女子22試合を行い，大詰めに突入している。
男子は大同特殊鋼(旧チーム名・大同製鋼)がすでに全日程を終了，6勝1分(勝ち点13)となり２試合を残す湧永薬品の結果待ち。女子は東京重機が健闘，最終日(9月26日・金沢)までタイトルの行方は判らない。

〔女子〕	東	立	ビ	ブ	ジ	大	日	ム
東京重機	…	○			○	○	○	○
立石電機	●	…	○	○	○		○	○
日本ビクター		●	…	○	△	○	○	○
ブラザー工業		●	●	…	●	○	○	
ジャスコ	●	●	△	○	…	○		
大崎電気	●		●	●	●	…	●	○
日立栃木	●	●	●	●		○	…	●
東北ムネカタ	●	●	●			●	○	…

～第4週第3日まで～

大同特殊鋼（6勝1分）追う湧永薬品

男子

第1週

9月4、5の2日間東京体育館、呉市体育館(広島)、徳山市体育館(山口)で計8試合が行われた。

▽第1日・東京（観衆千五百）

大崎電気(埼玉) 22（14－4 8－8）12 三陽商会(東京)

得	【大崎】		【三陽】	得
0	福本	GK	吉近	0
0	原田	GK	田村	0
8	斉藤	FP（審・近藤 大塚）	近森	1
2	大熊		田中	2
0	前渕		稲木	1
6	井手		緒方	1
1	佐藤		石原	3
3	飯田		鵜沢	1
2	東		小川	3
0	橋本		竹村	0
0	新田		梅屋	0
0	佐伯			
22 (1)		PT		(1) 12

○……開始2分三陽は田中のロングが決まり好調とみえたが、ディフェンスが甘く、大崎の斉藤、井手らの鋭いプレーにあって点差を開かれた。

後半、三陽は攻守ともまとまり互角だっただけに前半の不調が惜しまれる。大崎は攻撃の多彩さとベテランGK福本の手固さが光った。（後藤 登）

大同特殊鋼(愛知) 30（14－8 16－8）16 三景(東京)

得	【大同】		【三景】	得
0	柳川兄	GK	佐藤	0
0	倉谷	GK	竹村	0
5	藤中	FP（審・佐野 岡前）	佐々木	5
4	中井		加藤	0
4	松原		山村	1
3	花輪		川島	1
2	中本		村田	6
7	柳川弟		中馬	2
2	北村		内藤	1
2	大原		飯島	0
0	清崎		武内	0
1	浦田		高梨	0
30 (2)		PT		(2) 16

○……思わぬ大差がついた。前半11分までは6－5と期待どおりの熱戦だったが、そのあと大同が三景のお株を奪う巧妙なパスプレーで好機をつかみ、松原、柳川弟がシュートを決めた。

三景は反撃のチャンスが再三あったのだが、大同の守りをゆさぶり切れず、速攻も早い帰陣にあってつぶされた。

後半はいっそう総合力の差が現れ、大同は面白いように加点、15分25－11。三景は村田の個人技でどうにかポイントしたものの、初日の波乱を期待したスタンドに応えるには遠かった。（杉山 茂）

▽同・呉（観衆二千五百）

大阪イーグルス(大阪) 21（9－12 12－8）20 日新製鋼 呉

得	【大阪】		【日新】	得
0	本田	GK	三田	0
0	広川	GK	佐野	0
1	高橋	FP（審・平田 荒谷）	吹上	3
7	池本		下茂	4
0	足羽		脇若	1
2	安達		大庭	4
1	橋本		関本	1
1	河原崎		徳田	7
4	早川		越智	0
5	福井稔		吉田	0
0	北岡		松木	0
0	北居		村川	0
21 (3)		PT		(3) 20

○……イーグルスが試合巧者ぶりを発揮してみごとな逆転勝ち、いかにも日本リーグらしい好内容の緒戦となった。

試合の流れはつねに日新。後半11分16－11としたあと、要（かなめ）の脇若を負傷で欠いてイーグルスの追いあげを許したものの、23分20－18と優位を保っていた。

しかし、このあたりから日新は疲れがのぞき、コンビも崩れはじめた。ベテラン揃いのイーグルスは、このスキを早川がついて25分20－20の同点、勢いにのって27分池本がなだれこみ逆転のゴールをあげた。（村瀬正機）

湧永薬品(広島) 24（11－4 13－12）16 本田技研 鈴鹿

得	【湧永】		【本田】	得
0	福井	GK	細野	0
0	今井	GK	柴田	0
1	木野	FP（審・上田 東）	田上	4
2	高橋		新実	3
7	穂積		佐藤	3
2	松本		喜井	0
4	山本		金子	5
1	津川		柳	0
0	戸田兄		矢野	1
4	戸田弟		豊岡	0
3	藤本		高木	0
0	森		川上	0
24 (4)		PT		(5) 16

○……終始自己のペースで試合を進めた湧永が快勝した。

勝負は前半であっさりケリがついた。本田のイージー・ミスに恵まれたこともあったが、湧永は立ち上がり、木野、穂積、山本が連続ゴール、3－0として勢いをつけた。逆に本田はあせり気味。早いタマ離れで次々とチャンスをものにしていく湧永とは対照的に攻めが単調。前半終了5分前には立て続けに4ポイントを許し、湧永に完全に主導権を譲った。

ボールゲームでは、立ち上がりと終了前の集中力が極めて重要だが、このゲームはそのサンプルであった。（中国新聞5日付から）

山下選手が宣誓

第1回日本リーグの開幕式は、9月4日午後2時45分から東京体育館で行われた。

日本一の定評をもつ関東学院マーチングバンドの演奏にのって東京大会出場の10チームが入場行進、徳永陸繁リーグ運営委員長の開幕宣言、荒川清美日本協会理事長の挨拶につづき、オリンピック代表の山下恵美子選手(立石電機)が宣誓して、記念すべき日本リーグのスタートを切った。

▽第2日・東京（観衆二千八百）

三景 29（11－6 18－7）13 三陽商会

得	【三景】		【三陽】	得
0	佐藤	GK	田村	0
0	小林	GK	吉近	0
5	村田	FP（審・近藤 大塚）	石原	2
5	佐々木		緒方	4
3	中馬		稲木	1
3	内藤		小川	3
2	山村		田中	2
6	川島		近森	1
2	加藤		竹村	0
2	飯島		梅屋	0
1	武内		鵜沢	0
0	高梨			
29 (2)		PT		(1) 13

○……三景は、前日とは見違えるような動きで三陽を圧倒した。

前半、三陽は緒方のポストプレーを中心に得点、一方三景は佐々

木、村田、内藤らのテクニシャンが活躍。11—6でおわり、後半の三陽の奮起が期待された。

しかし、三陽は後半どういうわけか攻守共にリズムが崩れ、ミスが多かった。

逆に三景は川島、中馬らが好シュートを決め、余裕たっぷりのペースで試合が進んだ。

前半の試合内容からは予想もできない点差が開いてしまった。

三景のチームプレーが久しぶりに冴えた試合だった。

（青木敬子・編集委員）

大同特殊鋼 30（19—13、11—6）19 大崎電気

	【大崎】	得	【大同】	得
GK	福本	0	柳川兄	0
GK	原田	0	倉谷	0
FP	飯田	1	柳川弟	4
FP	佐藤	2	花輪	5
FP	井手	2	大原	2
FP	前渕	5	中本	3
FP	大熊	4	中井	5
FP	斉藤	4	藤中	8
FP	東	0	松原	2
FP	坂口	0	北村	0
FP	橋本	1	清崎	0
FP	椿原	0	浦田	1
	19（1）		PT	30（3）

（審・佐野、岡前）

○……地元の応援をうけ大崎は最初から気合十分だった。

大熊、斉藤らの若さあふれるプレーがベテランとうまくかみ合って大同ゴールを脅したが、さすが王者は少しもあわてずに藤中、中井らのオリンピック組の活躍で前半なかばから主導権を握った。

後半も大崎は激しく攻め込んだが、大同の厚いディフェンスとGK柳川のかたい守りにあって点差は縮まらなかった。

逆に大同は若手の中本、大原らをうまく使い、着実にポイント、危気なかった。（青木）

▽同・徳山（観衆二千）

本田技研鈴鹿 18（11—8、7—5）13 大阪イーグルス

	【大阪】	得	【本田】	得
GK	本田	0	柴田	0
GK	広川	0	細野	0
FP	高橋	2	金子	4
FP	福井稔	5	柳	0
FP	池本	2	新実	6
FP	河原崎	1	喜井	3
FP	早川	3	佐藤	2
FP	安達	0	田上	2
FP	橋本	0	矢野	1
FP	足羽	0	豊岡	0
FP	北岡	0	高木	0
FP	北居	0	川上	0
	13（0）		PT	18（1）

（審・岡村、横瀬）

○……勝つにはこの作戦しかない—と、本田技のエース佐藤にボールをさわらせないほどの密着マークをつけ、活路を見いだそうとしたイーグルス。

だが、身長差で勝る本田技は、力でイーグルスをねじふせた。

長身の新実、金子がディフェンスの頭越しにシュートを決め、二人で10点をあげる活躍。

後半15分までは2点差で粘られたものの、その後7点を連取して突き放した。（中国新聞6日付から）

湧永薬品 33（18—6、15—6）12 日新製鋼呉

	【日新】	得	【湧永】	得
GK	三田	0	今井	0
GK	佐野	0	福井	0
FP	大庭	3	津川	4
FP	吹上	1	穂積	5
FP	脇若	1	松本	8
FP	徳田	1	山本	1
FP	下茂	3	木野	4
FP	村川	1	高橋	3
FP	松木	0	戸田兄	3
FP	越智	0	戸田弟	3
FP	吉田	2	森	2
FP	関本	0	藤本	0
	12（0）		PT	33（2）

（審・星井、片山）

○……攻撃力の差は前半10分すぎに早くも出た。

湧永は津川、穂積の鋭い切りこみからのシュートとPTで4点を連取、そのあとも攻撃の手を休めなかった。

日新は、相手の高い守りにあって、シュートを阻まれ、しかも、湧永ディフェンスに動き負けたため、いい形でのシュートはほとんどなかった。

（中村時雄）

（個人得点5傑・第1週現在）①藤中（大同）13 ②穂積（湧永）、斉藤（大崎）12 ④柳川弟（大同）、村田（三景）11

本田、三景ゆずらず

第2週

9月11、12の2日間大阪市中央体育館、四日市緑地公園体育館（三重）で計6試合が行われた。

▽第1日・大阪（観衆千五百）

大同特殊鋼 26（17—7、9—12）19 大阪イーグルス

	【大阪】	得	【大同】	得
GK	本田	0	柳川兄	0
GK	広川	0	倉谷	0
FP	高橋	4	花輪	5
FP	池本	5	中井	3
FP	河原崎	3	藤中	6
FP	早川	2	松原	1
FP	福井稔	4	北村	4
FP	足羽	0	柳川弟	4
FP	安達	1	大原	3
FP	北岡	0	清崎	0
FP	橋本	0	中本	0
FP	北居	0	浦田	0
	19（0）		PT	26（3）

（審・新村、望月）

湧永薬品 30（18—6、12—5）11 三陽商会

	【三陽】	得	【湧永】	得
GK	田村	0	福井	0
GK	吉近	0	今井	0
FP	小川	1	松本	3
FP	稲木	2	山本	4
FP	近森	2	藤本	4
FP	田中	4	戸田弟	2
FP	緒方	1	津川	5
FP	石原	1	穂積	5
FP	竹村	0	木野	4
FP	梅屋	0	高橋	1
FP	鵜沢	0	森	2
FP			戸田兄	0
	11（0）		PT	30（2）

（審・幸田、狩野）

▽同・四日市（観衆六百）

本田技研鈴鹿 14（7—8、7—6）14 三景

引き分け

	【三景】	得	【本田】	得
GK	佐藤	0	細野	0
GK	小林	0	柴田	0
FP	佐々木	4	佐藤	3
FP	山村	1	田上	1
FP	川島	2	柳	0
FP	村田	4	喜井	2
FP	加藤	0	新実	1
FP	中馬	1	金子	4
FP	内藤	2	矢野	3
FP	飯島	0	豊岡	0
FP	武内	0	高木	0
FP			川上	0
	14（0）		PT	14（0）

（審・安芸、金沢）

○……7—9とされていた三景が後半5分から4分間に4点連取、11—9と一気に逆転した時は波に乗ったかとみえたが、本田はよく守備陣が立ちなおり21分12—12、場内をわかせた。

三景は25分村田で先行、いったん同点されたあとも佐々木で14—13としたのだが、本田に粘られ残り30秒新実に同点シュートを射ちこまれた。

（泉　正明）

▽第2日・大阪（観衆二千五百）

大阪イーグルス 21（12—12、9—5）17 三陽商会

○……国内試合では久々の満員。三陽のとび出しはよく3—0とリ

ドを奪ったが、イーグルスは10分すぎからエンジンがかかり、福井早川のベテランらしい攻めとPTで逆転。

後半、三陽は近森の気力にみちたリードから15分13—15まで詰めたが及ばなかった。（山田 稔）

得	【三陽】	
0	田村	GK
0	吉近	GK
4	田中	FP
0	小川	FP
1	稲木	FP
5	石原	FP
1	緒方	FP
6	近森	FP
0	竹村	FP
0	梅屋	FP
0	鵜沢	FP

得	【大阪】	
0	本田	GK
0	広川	GK
0	池本	FP
6	福井稔	FP
6	早川	FP
2	河原崎	FP
5	高橋	FP
2	橋本	FP
0	足羽	FP
0	安達	FP
0	北岡	FP
0	北居	FP

（審・光島 丸岡）

21（4）PT（1）17

湧永—大同16度同点引き分け

湧永薬品 21（11—9、10—12）21 大同特殊鋼

得	【大同】	
0	柳川兄	GK
0	倉谷	GK
3	中井	FP
7	藤中	FP
1	柳川弟	FP
3	花輪	FP
5	松原	FP
1	中本	FP
0	大原	FP
1	北村	FP
0	清崎	FP
0	浦田	FP

得	【湧永】	
0	福井	GK
0	今井	GK
4	津川	FP
2	穂積	FP
5	山本	FP
5	松本	FP
0	木野	FP
0	戸田兄	FP
5	高橋	FP
0	森	FP
0	藤本	FP
0	戸田弟	FP

（審・藤本 山本）

21（2）PT（0）21

○……優勝戦といえるカード、しかもライバル同士、国内試合ではめずらしく異様なムードの試合前だった。

はたしてスタートからまれにみる攻防戦となった。

30秒大同は藤中が先制点、湧永は2分穂積、3分高橋で逆にリード、そのあと25分すぎまで僅かながら押し気味に試合を進めた。

大同が〝強さ〟をみせたのはハーフタイム2分前から。

湧永のミスにつけこんで28分30秒藤中で同点（10—10）とし、29分藤中、29分50秒中井であっという間に2点差をつけた。

○……後半、湧永は10分までに4—2と劣勢を挽回、タイに戻して場内をエキサイトさせた。

前半同よう、互いの持ち味をいかして文字どおりのシーソーゲーム。

大同が13分14—15から16—15に逆転すれば、湧永もすかさず2点をあげて17—16、40秒後にはまた同点、どうしても主導権を奪うことができない。

20分から湧永が1点の先手をとり、26分松本で21—20としたが、大同は28分花輪で21—21、前半から数えて実に16回目のタイスコア残り2分、なお波乱ぶくみだったが、ともに決め手がなく引き分けた。

○……終了後、大同中浜、湧永市原両監督はともに逃したチャンスを残念がり、詰めの甘さを悔やんでいたが、ハンドボールの面白さを存分に発揮した熱戦だった。ただ、両チームとも興奮のあまり警告が多く、大同のエース藤中が2回反則退場（2分、5分）するなどラフなシーンがあったのは残念である。

▽同・四日市（観衆七百）

本田技研鈴鹿 26（12—7、14—7）14 大崎電気

得	【大崎】	
0	福本	GK
0	原田	GK
2	斉藤	FP
3	大熊	FP
2	井手	FP
0	飯田	FP
1	佐藤	FP
0	前渕	FP
2	東	FP
1	橋本	FP
3	坂口	FP
0	椿原	FP

得	【本田】	
0	柴田	GK
0	細野	GK
9	佐藤	FP
1	柳	FP
5	田上	FP
4	新実	FP
1	喜井	FP
4	金子	FP
2	矢野	FP
0	豊岡	FP
0	川上	FP
0	高木	FP

（審・都梅 安芸）

26（5）PT（0）14

○……前半15分まで3—3と白熱したが、本田は16分田上、16分40秒佐藤のゴールで調子づき、大崎守備陣の乱れも手伝って、27分には14—5と大差がついてしまった

後半も本田は10分までに4点を加え、18—7と試合の興味がなくなった。本田のよさがフルに出た会心の一戦。

大崎も大熊、坂口らで最後まで元気さを失わなかったが、前半の傷口が広すぎた。（泉）

（個人得点5傑・第2週現在）①藤中（大同）26 ②福井稔（イーグルス）20 ③穂積（湧永）19 ④松本（湧永）18 ⑤佐藤・金子（ともに本田）17

大同、三陽から42点

第3週

9月15、18、19の3日間栃木県体育館、福島市体育館、清水市体育館（静岡）、京都府立体育館、愛知県体育館で計6試合が行われた。

▽第1日・栃木（観衆六百）

大同特殊鋼 42（22—5、20—7）12 三陽商会

得	【三陽】	
0	田村	GK
0	吉近	GK
2	田中	FP
0	小川	FP
1	石原	FP
2	緒方	FP
1	稲木	FP
4	近森	FP
2	鵜沢	FP
0	竹村	FP
0	梅屋	FP

得	【大同】	
0	柳川兄	GK
0	倉谷	GK
1	大原	FP
7	松原	FP
4	花輪	FP
0	中本	FP
8	中井	FP
10	藤中	FP
0	北村	FP
11	柳川弟	FP
0	清崎	FP
1	野田	FP

（審・高橋 山下）

42（0）PT（0）12

○……大同は、湧永と同勝ち点を予想しているのか総得点増を狙ってスタート。その気負いが。

裏目となり7分3—3の〝拙戦〟

しかし10分を過ぎてからは目算どおりの攻撃で20分11—5、後半10分26—9、20分33—12。

こうなると三陽がどのような好プレーをみせても、目立たない。

30点差という記録的スコアで幕がおりた。（永山 茂）

▽第2日・清水

本田技研鈴鹿 25（12—10、13—5）15 日新製鋼呉

▽同・福島（観衆一千六百）

三景 19（9—9、10—9）18 大崎電気

▽第3日・名古屋（観衆一千）

本田技研鈴鹿 24（15—6、9—4）10 三陽商会

大同特殊鋼 31（20—5、11—7）12 日新製鋼呉

▽同・京都（観衆一千五百）

湧永薬品 22（14—6、8—4）10 大阪イーグルス

（個人得点3傑・第3週現在＝本誌調べ）①藤中（大同）48 ②柳川弟（大同）、佐藤（本田）30

第4週（前半）速報

（9月21～23日・熊本ほか）

◇男子

大崎電気 22（13—8、9—13）21 日新製鋼呉

三景 22（14—11、8—7）18 日新製鋼呉

日新製鋼呉 18（9—4、9—7）11 三陽商会

○……日新の7位（1勝6敗・勝ち点2）、三陽の8位（7敗・勝ち点0）が決定

大同特殊鋼 26（17—8、9—8）16 本田技研鈴鹿

○……大同は6勝1分で終了、総得失点差91。湧永薬品が残り2試合に2勝、しかも2試合で得失点差を32以上マークしない限り大同の初優勝となる。

◇女子

日本ビクター 12（4—1、8—1）2 日立栃木

東京重機 13（1—6、12—1）7 東北ムネカタ

ジャスコ 14（7—4、7—5）9 大崎電気

立石電機 19（11—5、8—4）9 ブラザー工業

○……重機はブラザー工業、日本ビクター戦を残し2勝または1勝1分で優勝。1勝1敗の場合、立石が大崎戦に勝てば同勝ち点（12）となり、立石と総得失点差の争いになる。

日本ビクターにも望みはあるが残る重機戦に勝っても勝ち点11だけに立石より可能性がうすい。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

3強に重機からむ激戦

女子

第1週　9月4、5の2日間東京体育館で計4試合が行われた。

▽第1日

立石電機（熊本）10（4—4　6—5）9 日本ビクター（茨城）

	【ビ】	得	【立石】	得
GK	渡辺	0	和田	0
GK	鈴木	0	丸山	0
FP	蓮見	1	山下	1
FP	額賀	3	蔵田	3
FP	穂積	2	篠田	1
FP	小島	1	島田	1
FP	池田	0	紀野	3
FP	加藤	2	池渕	0
FP	斉藤	0	平下	1
FP	染谷	0	実松	0
FP	藤原	0	林	0
FP	永池	0	田島	0

（審・藤原、勝）

10（1）PT（3）9

○……いきなり優勝を左右するカード。PTをはずし波へ乗り切れぬ立石に対し、ビクターは速攻、ロングを織りまぜて20分4—2。立石もようやく前半残り2分から蔵田の鮮やかなステップシュートと紀野の速攻で追いついた。

後半、パスミスで速攻の乱れるビクターをついた立石は、スカイプレー、速攻などで15分9—6の好ペース。

ビクターは、PTによる得点しかあげられずにいたがディフェンスの動きはよく、立石の追加点を阻んだため、終盤に反撃の好機が訪れ残り40秒9—9のタイ、引き分けにもちこんだかとみえた。

しかし、立石はラストチャンスを活かして残り3秒島田が右45度からジャンプシュートを決め、貴重な1勝をあげた。開幕を飾るにふさわしい好試合、観衆をたんのうさせた。（山本浩二）

大崎電気（埼玉）11（5—4　6—2）6 東北ムネカタ（福島）

	【東北】	得	【大崎】	得
GK	熱海	0	西村	0
GK	海村	0	中島	0
FP	遠藤	3	席定	0
FP	有賀	1	内野	0
FP	鈴木郁	1	大場	1
FP	清水	1	深堀	2
FP	本郷	0	西	2
FP	近内	0	陽田	5
FP	鈴木栄	0	中村	1
FP	藁谷	0	佐々木	0
FP	郷	0	工藤	0
FP			吉田	0

（審・佐分、栗城）

11（1）PT（2）6

○……5—5の後半4分から大崎は新人・西の連続得点と大場で優位に立ち、終盤も好機を逃さず押し切った。

ムネカタは前半10分3—1とリードを奪うなど健闘したが、後半は疲れでプレーが雑に流れた。（佐野和夫）

▽第2日

立石電機 20（8—3　12—4）7 東北ムネカタ

○……立石が多彩なプレーで攻めまくり強さをみせつけた。ムネカタは立石の早いつぶしにあって得点が散発的。

	【東北】	得	【立石】	得
GK	熱海	0	丸山	0
GK	海村	0	和田	0
FP	遠藤	2	紀野	6
FP	有賀	1	平下	1
FP	鈴木郁	0	池渕	4
FP	近内	0	篠田	3
FP	本郷	1	山下	3
FP	清水	3	蔵田	1
FP	郷	0	島田	0
FP	藁本	0	林	0
FP	鈴木栄	0	実松	1
FP			田島	1

（審・勝、藤原）

20（0）PT（0）7

日本ビクター 9（7—3　2—5）8 大崎電気

	【大崎】	得	【日ビ】	得
GK	西村	0	渡辺	0
GK	中島	0	鈴木	0
FP	内野	1	池田	1
FP	大場	0	額賀	3
FP	深堀	1	加藤	3
FP	席定	1	穂積	0
FP	西	4	蓮見	1
FP	陽田	1	小島	1
FP	佐々木	0	染谷	0
FP	工藤	0	斉藤	0
FP	吉田	0	藤原	0
FP	中村	0	永地	0

（審・栗城、佐分）

9（2）PT（1）8

○……ビクターは後半3分8—3として、そのままのペースで終るかとみえたが、大崎のポスト攻撃にディフェンスが崩され、しかも攻撃まで乱調となって得点が止まり、19分8—8に追いつかれてしまった。

ビクターはこのあとのPTを額賀が決めて辛くも大崎を振り切ったが、立石戦の敗退が影響したのか精彩がなく、同点としたあと大崎が慎重に攻めていれば、勝敗は所を変えていたかもしれない。（杉山）

（個人得点5傑・第1週現在）①紀野（立石）、西（大崎）9 ③額賀（日ビ）6 ④加藤（日ビ）、遠藤（東北）5

日立、立石に食い下る

第2週　9月11、12の2日間、大阪市中央体育館、四日市市緑地公園体育館で計6試合が行われた。

▽第1日・大阪

立石電機 14（6—5　8—6）11 日立栃木（栃木）

	【日立】	得	【立石】	得
GK	粂谷	0	和田	0
GK	高橋	0	丸山	0
FP	鈴井	0	蔵田	2
FP	晴山	1	島田	1
FP	山井	4	山下	0
FP	大岩	1	紀野	3
FP	桜庭	1	池渕	3
FP	小根沢	2	篠田	3
FP	島田	2	田島	2
FP	田村	0	平下	0
FP	荒木	0	実松	0
FP	吉田	0	林	0

（審・藤本、山本）

14（2）PT（1）11

○……日立は新人・島田と晴山が立石守備陣の上から強引に射って出る積極策をみせ、若手中心の立石は思わぬ苦戦を強いられた。

しかし、さすが要所は紀野らオリンピック代表の多彩な攻めと、池渕のシュート力で逃さなかった日立の善戦が賞される。（山田）

東京重機（東京）12（5—4　7—5）9 大崎電気

	【大崎】	得	【重機】	得
GK	西村	0	佐久間	0
GK	中島	0	村上	3
FP	席定	1	町田	1
FP	内野	0	横山	2
FP	深堀	1	鈴木	1
FP	西	3	古佐原	0
FP	陽田	0	古谷	0
FP	大場	4	関	2
FP	佐々木	0	寄田	0
FP	中村	0	細谷	0
FP	工藤	0	折口	3
FP	藤村	0		

（審・丸岡、光島）

12（1）PT（0）9

○……いつになく重機は古佐原の動きが鈍かったが、折口、町田、西らの好技で対抗、大崎も席定、鈴木らがカバー、緊迫した。

後半、重機は村上の攻撃が波にのり、5分8—4とリードしたのが大きかった。大崎は焦りから強攻して好機をつぶし10分11—5、勝負が決まった。（山田）

▽同・四日市

ジャスコ（三重）10（7—1　3—6）7 ブラザー工業（愛知）

	【ブ工】	得	【ジャ】	得
GK	山本	0	久保	0
GK	浅谷	0	山本	0
FP	岩井	0	平田	0
FP	山中	0	松下	2
FP	小森	1	林	2
FP	木下	0	金田孝	3
FP	宮平	2	鈴木田	3
FP	国府田	1	河田	0
FP	中川	1	笠	0
FP	佐々木	2	若田	0
FP	宮本	0	金田伴	0
FP	楠石	0		

（審・高山、中根）

10（1）PT（2）7

○……両チームともリーグ第1戦とあって固さがほぐれず15分までにあげた得点はジャスコ・林の1点だけ。15分をすぎてようやくジャスコの攻撃にリズムが出、金田孝の速攻などで点差が開きはじめた。

それに引きかえブラザーは調子のでかたが遅く反撃に出たのは後半16分2—10とされてから。3点差にしたところで時間切れになった。（泉）

▽第2日・大阪

日立栃木 9（4—3　5—5）8 大崎電気

○……日立は後半14分5—5から

PTと小根沢のゴールで優位に立ち一度同点にされたが、すぐに点を加え逃げこんだ。

	【大崎】	得	【日立】	得
GK	中島	0	粂谷	0
GK	西村	0	高橋	0
FP	大場	2	鈴井	0
FP	深堀	3	晴山	1
FP	席定	0	山井	0
FP	西	2	桜庭	0
FP	陽田	0	小根沢	1
FP	内野	0	島田	3
FP	中村	1	大岩	4
FP	工藤	0	田村	0
FP	佐々木	0	荒木	0
FP			吉田	0

（審・新村・望月）

9（4）PT（1）8

○……日立は立石戦（前日）で自信をつけたようだ。大崎との実力は五分であったが、やはり精神的なゆとりは、プレーの随所に現れ大型の島田を盛り立てて先行した。

大崎も大場の好リードからなんとか勝ちこし点を狙うのだが、前半の1点差が重く、最後は日立・晴山の気力の一投に突き放されてしまった。（山田）

東京重機 16（9―8、7―6）14 立石電機

	【立石】	得	【重機】	得
GK	和田	0	佐久間	0
GK	丸山	0	村上	4
FP	島田	5	町田	0
FP	蔵田	5	横山	3
FP	山下	0	鈴木	3
FP	紀野	0	古佐原	5
FP	池渕	3	古谷	0
FP	篠田	1	関	0
FP	田島	0	寄田	0
FP	平下	0	細谷	0
FP	実松	0	折口	1
FP	林	0		

（審・狩野・幸田）

16（0）PT（4）14

○……実業団リーグ1位の立石、最下位の重機。4カ月前の順位である。

その重機が前半終了間際の逆転で握った優位を、そのあと一度もはなさず、堂々と押し勝ったのだからすごい。大波乱といえる。

6―8とリードされた重機は23分古佐原で反撃の口火を切り、立石の一瞬のスキをついた速攻で23分10秒横山が同点ゴール、24分40秒鈴木がたたきこんで9―8とした。

後半、立石は必死に反撃したが重機は11―10のあと鈴木が連続ゴール、13―11のあと古佐原と絶好調の村上がゴール、主導権を握りつづけたのが大きい。

立石は、前半島田の活躍とPTで、いちどペースを握りかけながらハーフタイム直前の乱調で、大きな星を落とした。

▽同・四日市

ジャスコ 8（3―5、5―3）8 日本ビクター 引き分け

	【日ビ】	得	【ジャ】	得
GK	渡辺	0	久保	0
GK	鈴木	0	山本	0
FP	蓮見	0	松下	2
FP	額賀	4	林	2
FP	小島	0	若田	1
FP	池田	1	平田	0
FP	加藤	2	金田孝	3
FP	斉藤	0	鈴木	0
FP	染谷	0	笠	0
FP	藤原	0	河田	0
FP	永地	0	金田伴	0
FP	穂積	1		

（審・中根・金沢）

8（1）PT（2）8

○……後半5分額賀の連続3ゴールで8―3としたビクターは絶対有利の体勢だったのだが、地元の声援をうけるジャスコは、その直後林、笠で点を返して反撃の足場をつくった。ディフェンスも健闘してビクターの攻撃を封じ、15、23分金田孝がゴール、引き分けに持ちこんだ。

優勝争いに残るには負けられぬ一戦とあって白熱、攻撃にややムラはあったものの、なかなか見応えのある試合になった。（泉）

（個人得得5傑・第2週現在）①西（大崎）14②紀野（立石）12③蔵田（立石）11④額賀（日ビ）、池渕（立石）10

重機、波にのりジャスコも

第3週

9月15、18、19の3日間栃木県体育館、福島市体育館、清水市体育館、京都府立体育館、愛知県体育館で計8試合が行われた。

▽第1日・栃木

東京重機 16（9―2、7―6）8 ジャスコ

	【ジャ】	得	【重機】	得
GK	久保	0	佐久間	0
GK	山本	0	村上	2
FP	松下	1	町田	1
FP	平田	1	横山	3
FP	鈴木	2	鈴木	4
FP	笠	1	古佐原	4
FP	林	1	古谷	0
FP	金田孝	1	関	0
FP	若田	1	寄田	0
FP	金田伴	0	宮田	0
FP	河田	0	折口	2

（審・永山・斉藤）

16（1）PT（1）8

○……立石を破って波にのる重機は前半20分までに5点、しかもジャスコに1点も与えぬ鮮やかな攻守をみせた。

ジャスコは河田を盲腸で欠くこともあり攻撃に切れ味がなく動きのいい古佐原、折口にかきまわされてパスもつながらなかった。

重機は後半、鈴木の新人放れしたシュート力で点差をあけ13分13―2と思いもかけぬ一方的なゲームになった。（山下勝司）

日本ビクター 16（7―2、9―4）6 ブラザー工業

	【ブ工】	得	【日ビ】	得
GK	山本	0	渡辺	0
GK	浅谷	0	鈴木	0
FP	小森	2	穂積	3
FP	岩井	2	加藤	4
FP	山中	0	池田	0
FP	宮本	0	額賀	7
FP	中川	0	蓮見	1
FP	宮平	0	小島	0
FP	国府田	1	染谷	1
FP	木下	0	藤原	0
FP	佐々木	0	斉藤	0
FP	楠石	0	永地	0

（審・山下・高橋）

16（4）PT（1）6

○……ビクターはPTを受けもつ額賀と、ロングに鋭さをました穂積の活躍で序盤からリードを奪いつづけ、危気なくブラザーを押し切った。

ブラザーはGKの好守と出足のよいディフェンスで善戦しながらも、攻撃にまわるとパスがつまり気味、後半15分5―9としたのが精いっぱい。迫力のない凡戦だった。（斉藤和夫）

東北ムネカタ 9（5―5、4―3）8 日立栃木

	【東北】	得	【日立】	得
GK	熱海	0	粂谷	0
GK	海村	0	高橋	0
FP	有賀	5	晴山	0
FP	遠藤	1	鈴井	1
FP	鈴木郁	1	山井	1
FP	鈴木栄	0	島田	2
FP	清水	2	小根沢	2
FP	本郷	0	桜庭	1
FP	藁谷	0	大岩	1
FP	郷	0	荒木	0
FP	近内	0	吉田	0
FP			田村	0

（審・永山・斉藤）

8（0）PT（0）9

○……同型らしくもつれた。勝負がもちこまれた後半、東北は1分30秒、7分有賀が2点を奪い先行日立も10分島田のロングで追ってその後はシーソーゲーム。

東北・有賀、日立・桜庭が射ち分け残り5分となったが、東北は鈴木のゴールで9―7とし、日立懸命の反撃を1点におさえて逃げこんだ。

▽第2日・清水

ブラザー工業 13（8―1、5―3）4 日立栃木

▽同・福島

日本ビクター 13（5―4、8―4）8 東北ムネカタ

▽第3日・名古屋

ブラザー工業 8（4―2、4―5）7 大崎電気

東京重機 9（4―4、5―3）7 日立栃木

▽同・京都

立石電機 20（12―4、8―5）9 ジャスコ

	【ジャ】	得	【立石】	得
GK	久保	0	和田	0
GK	山本	0	丸山	0
FP	平田	0	山下	3
FP	松下	1	蔵田	2
FP	林	4	紀野	4
FP	金田孝	2	池渕	3
FP	鈴木	1	平下	1
FP	笠	1	篠田	1
FP	若田	0	島田	6
FP	河田	0	林	0
FP			田島	0
FP			実松	0

20（0）PT（0）9

（個人得点5傑・第3週現在）①額賀（日ビ）17②紀野（立石）16③西（大崎）14④島田、蔵田、池渕（以上立石）、村上（重機）13

☆……日本リーグへのご意見を本誌あてお送り下さい。〆切り10月10日。

「日本リーグ」への注文①

ファンに愛される運営を

後藤　忠弘
（東京新聞運動部）

▽**〝権威〟の確立**　開幕リーグで一つ、気ずいたことは、関係者が、せっかく一生懸命やっているにもかかわらず、どこかに空気洩れがあった。

日本リーグはサッカー、バレーボール、バスケットボール、アイスホッケー、ソフトボール、軟庭に続き、日本スポーツ界では7番目とはいえ、日本ハンドボール界にとっては、画期的な事業に違いない。ぜひとも成功させたいものだが、それには、それなりの準備と見通しが必要だ。

先輩格の他競技のリーグの運営方法や実情を、どれだけ研究されたのだろうか。派手な宣伝法や、きらびやかな運営をマネしてほしい、というのではない。各競技が自分の力を伸ばし、普及強化の根を張るために、どのような考え方に基いて、どんな努力をしたか、その過程と姿勢を知ってほしい、と思うからだ。

これは、日本選手権と並ぶべき日本リーグの〝権威〟を確立していくためにも、必要なことではなかろうか。

▽**報道サービス**　記録に関する限り、なかなか立派なものであった。地方会場での試合結果の入り方もよかった。関係各方面の事前打ち合わせが徹底していたせいだろう。

ただ、会場入り口で、報道陣をチェックしないのはよくない。私のいいたいのは、受付で社名と名前を書いてもらうべきだ、ということである。そして、その名簿を協会（リーグ運営委員会）が保管すればよい。どこの、だれが取材に来たか、を知ることは、関係各位が、マスコミとの接触を深めていく上で、無言の資料となる。

▽**プログラム**　大急ぎで作ったのかもしれないが、お世辞にも見事とはいえない。ハンドボールを一般の人々にも知ってもらう、というのが日本リーグの目的ならば、一考を要する。

すなわち、①リーグの主旨と開催方法②競技の主なルール③世界情勢と日本の実力、さらには今回などは、タイミングからいっても〝モントリオール五輪・戦いのあと〟ぐらいは、ほしいところだった。そのほか、数え上げればキリがないが、要は「これがあればハンドボールのことが最低限はわかる」内容があれば、ということなのだ。

ハンドボールのＩＦには一体、何カ国加盟しているのだろうか。日本の競技人口はどのぐらいあるか。早い話、こんなことだって、知っているハンドボール人が何人いるだろうか。キザな表現だが、発展は正しい自己認識から始まるのだ。

こまかいことをいうようだが、メンバー表には、各人の体重はともかく、身長は入れるべきだ。社会人選手となってからの経験年数や、世界選手権等のキャリア（略号で書けばよい）も、是非つけてほしい。

▽**観客動員**　スポーツ競技の発展には、実技の指導も大切だが、よい試合を見ることの効果も見逃せない。観戦は、楽しみであると同時に指導でもある。そして、よい試合は、一つには、満員のスタンドがつくり出す。運営役員、選手、観客、報道の〝4位1体〟こそ競技会の理想だ。

日本リーグが、第一線のレベル向上と、普及指導の二つの目的を持っているとすれば、まず、スタンドを一杯にすることが必要だ。中・高校生と、各チームを持つ企業の応援団の〝動員体制〟を確立したい。最近、大学生選手が、他人の試合を見たがらないのは、なにもハンドボールだけではない。実際、困ったことである。これもなんとかしなければならない。

▽**場内演出**　リーグ開幕日、東京会場では、関東学院のバトン・トワラーを先頭にしたマーチのドリルが公開されて、幕間に華やかないろどりを添えた。加山雄三の歌なども流された。しかし、肝心の、各試合ごとの選手入退場の時には何もない。これでは盛り上がらない。マーチぐらいは流し、観客の手拍子をさそうべきである。

試合の前後、ハーフタイムなども、うまく利用したい。各チームの特色や、知名選手の紹介、ことしのような場合なら、五輪代表の選手や監督、コーチ連に、場内マイクを通じ、感想を語らせてもよかったのではないか。

観客の興味をそそり、選手やチームへの親近感を抱かせる企画が欲しい。

▽**多すぎる試合数**　第1回ということで、今回だけの例外かもしれないが、東京、大阪など一部で同一開催日同一会場4試合、という日程があった。これは、ちょっと多すぎるのではないか。観客がよいコンディションで競技を見られる時間は、せいぜい2時間半ぐらい。これは映画やプロ野球等の興行時間でもわかるはず。また、一日に全国で6試合もあるようだと、今後、新聞での扱いが悪くなる場合も考えられる。なるべく上手に分散して、できるだけ長い間記事が載る工夫もしてほしい。

▽**記録統計**　スポーツの生命は記録であり、数字である。ハンドボールは得点以外のデータが、なかなかとりにくい競技だと聞いているが、専門家集団の努力で、シューター以外の選手の〝実力〟や勝利への〝貢献度〟などが、わかるようにしてほしい。

そして、それをプログラムに加え、〝年鑑〟的な性格を持たせたらどうか。サッカーとアイスホッケーでは、すでに立派なリーグ年鑑が、独立して編集されている。

▽**その他**　以上、いろんなことを述べてみたが、要は、楽しいふん囲気の中で、試合の質を高め、ファンに愛されるか、である。だから、他競技の日本リーグの中には、ファンを固定化するため〝友の会〟組織を作って、会員にサービスをはかったり、アンケートをとったり、ハンドボールの場合ならベスト7の投票をさせたり、なにかのテーマで懸賞募集したり、いろんなことをやっている。こんなことも将来、研究したらいい。

10月26日から佐賀国体

リーグ勢による成年男女

第31回国体は"若楠"の名のもとに、10月25日から29日までの5日間（総合開会式は24日）、佐賀県神埼町の神埼高球技場を主会場にして行われる。

地元の大会規模縮少案がいれられて、参加チームは4種別5部68チーム（884人）と小型だが、すでに別掲（次頁）のとおり出揃い、成年男女にはモントリオールオリンピック代表24人のうち18名が出場するなど、例年におとらぬ好内容が望めよう。

組み合せ抽せんは、本誌〆切り後（9月25日）とあって、優勝争いを占うのは難しいが、有力と呼び声が高いのは成年男子一般では日本リーグ勢を主力とする愛知、東京、広島、埼玉、三重、同教員は大阪、千葉、佐賀あたり。

教員の部は、現在の予定では今大会が最後となり、来年の青森国体からは一般と合体することになろう。

同女子は熊本を追って三重、茨城、福島、石川らが強そう。日本リーグで好調の東京重機（東京）は予選で姿を消している。

注目の少年男子は、インターハイ優勝の下関中央工高による山口が中心、愛媛、富山、愛知にも期待がかかる。

同女子は参加数が14と拡がり混戦とみるムキもあるが、大分東高の大分が抜群のようだ。対抗は熊本愛媛、秋田とみたい。

都道府県の得点争いは、総合（天皇杯）ではフルエントリーの佐賀、北海道、4部門出場の山口を追って熊本、三重、愛知、大阪、石川、茨城、愛媛など。

女子（皇后杯）は熊本、石川、大分、茨城、山口か。

全日本総合にPT合戦を採用

日本協会は9月18日の月例常務理事会で今年の全日本総合選手権（12月8〜12日・東京体育館）から第2延長同点の場合、PTコンテストで勝負を決めることにした

これまではトス（抽せん）によっていたもので、日本協会主催の全国大会でPTコンテストが採用されるのは初めてのケース。

なお、同大会は男子24、女子16チームによるトーナメント（一本勝負）で争われることも確定した

全国大会審判員上衣
10月15日申しこみ〆切り

日本協会審判部は、全日本大会におけるA・B級審判員の服装統一のため上衣（トレーニングシャツ・パンツ）を作成しているが、このほど新たな注文をうけることになり地方協会審判部へ通知した

申しこみの〆切りは10月15日、各都道府県協会で一括し、所定用紙に代金を添えて注文する。

販売価格は各サイズ共通で一着八千五百円（送料を含む）

IHF総会に荒川理事長

日本協会は9月18日の月例常務理事会で、10月3、4日ポルトガルで開かれる第16回IHF（国際ハンドボール連盟）総会へ荒川清美理事長を派遣することに決めた

同総会は、イスラエルのヨーロッパ地域移行をはじめ、アジア連盟問題など、日本の今後にかかわる課題解決が予定され、また、モスクワオリンピック（昭55）までの国際動向が確定されるとみられる。

また、IHFは、機構の確立と人材の拡充を企るため地域（大陸）別に、技術・審判・広報などの委員推せんを受けることになり、日本協会も候補者を近く選出する。

タイなどIHF加盟の動き

IHF（国際ハンドボール連盟）筋が明きらかにしたところでは、現在次の23カ国がハンドボール活動をはじめ、近い将来加盟の動きを示すものとみられる。

クメール、マレーシア、シンガポール、タイ、バーレーン、アラブ首長国連邦、クオーター、アルバニア、ギリシャ、アイルランドサン・マリノ、トルコ、中央アフリカ、モザンビーク、サンシバルスーダン、チャド、ベリゼ、チリコロンビア、ジャマイカ、パナマベネズエラ

なお、イラクが近く正式加盟国となり、ウガンダが準加盟国になる模様。

世界学生選手権（男子）に出場

全日本学連は、来年1月9日から16日までポーランドのワルシャワ、タルヌーフなど5都市で行われる第7回世界学生選手権（男子）へ、代表チーム（役員5、選手15）を送ることに決め、各地学連からの推せん選手や、東西対抗（本誌36頁参照）などのデーターをもとにして、選手選考を進めている。10月上旬発表の予定。

同選手権に全日本学生が出場するのは第1回（昭38、スウエーデン、日本7位）、第6回（昭50ルーマニア、10位）についで3回目である。

佐賀国体ブロック代表決定戦記録（太字が代表）

◆北海道

▽成年男子・一般
函館有斗ク 20―13 函館大谷ク
▽同女子
室蘭OGク 15―11 函館女子商ク
▽同・教員
鶴稜クA 21―11 道日体ク
▽少年男子
釧路湖陵高 13―12 函館大谷高
▽同女子
函館商高 10―5 恵庭南高

◆北信越

▽成年男子・一般第1、第2代表決定戦
石川（金沢市役所）21―17 富山（氷見ク）
長野（全長野）20―8 福井（光陽会）
▽同・教員
富山 22―20 福井
▽同女子
石川（北国銀行）16―5 福井（全福井）
▽少年男子
富山（氷見高）16―12 長野（坂城高）
▽同女子
石川（小松市女高）9―5 富山（有磯高）

◆関東

▽成年男子・一般 第1・第2代表決定戦
東京（三景）27―13 栃木（AOK栃木）
神奈川（全神奈川）14―9 千葉（海上下総）
▽同第3・第4代表決定戦
栃木 31―18 群馬（甘楽ク）
埼玉（大崎電気）36―16 千葉
▽同・教員
千葉 21―14 茨城
▽成年女子
茨城（日本ビクター）16―9 東京（東京重機）
▽少年男子
千葉（高校選抜）15―14 神奈川（全神奈川）
▽同女子第1・第2代表決定戦
千葉（昭和学院高）4―3 神奈川（全神奈川）
茨城（高校選抜）10―4 栃木（高校選抜）

◆東海

▽成年男子・一般 決勝リーグ
三重（本田技研鈴鹿）45―11 岐阜（二和家具）
愛知（大同製鋼）51―7 静岡（浜南ク）
三重 33―14 静岡
愛知 46―16 岐阜
愛知 26―21 三重
【順位】①**愛知**②**三重**③岐阜・静岡
▽同・教員
三重 26―18 愛知
▽同女子
三重（ジャスコ）9―7 愛知（ブラザー工業）
▽少年男子
愛知（高校選抜）23―11 岐阜（県岐阜商高）
▽同女子決勝リーグ
岐阜（高校選抜）6―5 静岡（全静岡高校選抜）
愛知（高校選抜）6―3 三重（津女高）
静岡 7―5 三重
愛知 10―5 岐阜
岐阜 9―4 三重
愛知 9―6 静岡
【順位】①**愛知**②**岐阜**③静岡④三重

◆近畿

▽成年男子・一般 第1～第3代表決定戦
大阪（大山商会）20―10 兵庫（神戸製鋼）
京都（京都ク）25―14 和歌山（丸善石油下津）
滋賀（全滋賀）20―12 奈良（奈良選抜）
▽同第4代表決定リーグ
兵庫 21―13 和歌山
和歌山 21―13 奈良
兵庫 21―16 奈良
【順位】①**兵庫**②和歌山③奈良
▽同・教員
大阪（大阪イーグルス）19―15 兵庫（スワロー兵庫）
▽同・女子
京都（京都ク）16―8 兵庫（甲子園OG）
▽少年男子
兵庫（高校選抜）19―11 滋賀（八幡工高）
▽同女子第1代表決定戦
兵庫（高校選抜）6―4 大阪（高校選抜）
▽同第2代表決定戦
大阪 5―4 和歌山（高校選抜）

◆四国

▽成年男子・一般
高知（高知ク）22―14 香川（瀬戸ク）
▽同・教員
高知 24―20 香川
▽成年女子
愛媛（松商ク）10―7 高知（高知ク）
▽少年男子
愛媛（新居浜工高）16―7 香川（高松工芸高）
▽同女子
愛媛（高校選抜）12―2 高知（高校選抜）

◆中国

▽成年男子・一般 決勝リーグ
岡山（児島ク）26―16 島根（松江ク）
山口（徳山ク）21―12 鳥取（境港市HC）
広島（菱風ク）13―12 岡山
鳥取 45―7 島根
山口 29―14 岡山
山口 棄権 島根
広島 37―15 島根
岡山 21―12 鳥取
広島 21―8 鳥取
【順位】①**山口**②**広島**③岡山④鳥取⑤島根
▽同・教員
岡山 10―6 山口
▽成年女子
山口（徳山ク）18―8 広島（選抜）
▽少年男子
山口（下関中央工高）20―8 鳥取（境港工高）
▽同女子
山口（高校選抜）9―4 広島（高校選抜）

◆九州

▽成年男子・一般 第1・第2代表決定戦
長崎（佐世保ク）23―18 大分（新日鉄大分）
福岡（西南ク）24―12 熊本（熊本ク）
▽同第3代表決定戦
熊本 32―13 大分
▽同・教員
鹿児島 19―17 沖縄
▽成年女子
熊本（立石電機）33―8 沖縄（沖縄ク）
▽少年男子
大分（高校選抜）15―14 福岡（高校選抜）
▽同女子第1、第2代表決定戦
熊本（高校選抜）12―5 鹿児島（高校選抜）
大分（大分東高）23―8 福岡（高校選抜）

◆東北（代表チーム）

▽成年男子・一般 **青森**（青森ク） **秋田**（下北手ク）、**福島**（福島SGク）▽同・教員 **岩手**▽同女子 **福島**（東北ムネカタ）▽少年男子 **福島**（全福島高校）同女子 **秋田**（和洋女高）

＜注＞「東北」の記録は、本誌38頁「東北ミニ国体」の項参照

モントリオール特集＜第2回＞

日本が「ベスト8」へ進むには ①

「参加」から「勝つ」時代へ――。それには？
この特集は、プレーに明け暮れてきた代表選手に卒直な提言を求めた〝最初の場〟である。

男子代表選手 寄稿

主将 木野 実

今回のモントリオールをふりかえってみて、目標の六位に入賞が及ばなかったものの内容的には、良いゲームが多かった。つまり、勝つチャンスが多くあったことや我々ははっきりと勝ちを意識したゲームがやれる様になったことです。

これは過去の国際ゲームで、自分のプレーがどこまで通用するか日本チームとしてどの戦法がいいのかという模索の状態から抜け出し、勝つには……という強い意識と意欲、そして作戦面でも前向きで考えられたことです。この要因がいったいどこからでてきたかと考えますと、私は昨年九月カナダでのプレ五輪に出場し、予測しないほどの惨敗を屈した経験が大きくものをいっていると考えます。といいますのも、一九七四年の世界選手権大会（東独）から一年半の経過で世界のハンドボールががらりと変化したことです。全てにスピード化され、防禦から速攻への切り換えの早さ、サイド攻撃から多くなり、打たせてとる防禦から打たせないという積極的な防禦、（サイドで中に飛び込まれた場合ペナルティーになるケースが多い）又、かつては紳士のスポーツであり、流動的な美しさがあったハンドボールが、半暴力的（粗暴）なものになっていることへの警鐘として、レフリーの判定の厳格化が求められ、ペナルティー、警告退場などの判定、かなり自国でのゲームとかけはなれすぎているという問題点など経験したことです

そして、今迄日本に欠けていた情報は、ビデオを持参し各国のゲームを控えの選手二名が撮影し、プレ五輪後、攻撃、防禦について深く分析、研究し、又何度となくテープをみて個々の選手のクセを知り得たことが、今回精神的なゆとりをもってゲームに臨めて、内容的に良いゲームが出来た要因の一つに数えあげられるのではないでしょうか。

外国チームはオリンピック、世界選手権の一年前にほとんどメンバーも決まっており、よほどのことがない限り変動がない様な気がします。現に本番ではプレ五輪の時に予想されたメンバーが参加し二メートルの大男がいても決して驚くまでにはいかなかった。相手を知らないで戦う時の不安感は大きいものです。

国内でナショナルチームが何度合宿を重ねても感覚もちがい問題点の解決にはほど遠いと思いますそして、IHFの技術委員会、レフリーの問題にしてもその動向を適確にとらえ、それに対し善処し流れに乗っていくことが大切ではないでしょうか。

日本は日本式のルールでやっていくんだという意地をはっていたのではいつまでたっても今迄の経験をくり返すのみです。又、ナショナルはナショナル、我々の組織とは全く関係ないんだという考えがあるのなら国際ゲームへの上位進出は夢物語の様な気がしますし論議してものれんに腕押しでしょう。

ナショナルチームの編成についても大会直前になって改めて組み直してみたり大変あわただしく、本当にチームとしての活動ができない状況にありました。新しい試みはいいと思いますが、いったん決定されたことは長い目でその成果をみて次の段階にすすんでいく姿勢があってしかりだと思いますが私の思いすごしでしょうか。

予算等諸般の事情があるとはいえ、ヤングナショナルのように1年1回の顔合わせで終り、若い人達への指標がなく、チャンスを与えていかないと、キャップが更にひろまりそうです。又自己の為、名誉のためとはいえ交通費等自己負担までして合宿、海外遠征をしなければならない人もおり、回数が多くなれば、それだけ犠牲をはらわなければならない現実に対してどう対処し、そして希望のある魅力あるナショナルチームにしていくかが課題だと思います。

（FP、湧永薬品）

佐藤 要二

モントリオールオリンピック大会も終り、日本の目標であった、ベスト8進出とヨーロッパの一角を崩す事が出来なかった事は、誠に残念である。

現在のチームになって約2年、数多くの練習、合宿を重ね、プレオリンピック等のビデオテープを中心にミーティングをやり、日本チームとしてベストの状態で大会に臨む事が出来たがヨーロッパの壁は厚く、アメリカ、カナダには勝つ事は出来たが第9位の成績に終った。

ヨーロッパ諸国をみた時、国の政策としてスポーツを奨励し、国が指導方法を確立している。選手としてプレーを続けている間、国が保証していれば、ハンドボールを、愛好する者は安心してスポーツに取りくむ事が出来る。日本といちばん違う点はここだと思う。大会に出られるうれしさはあっても、大会が終れば、むなしさだけが残る事が多い。

ベスト8、ベスト6に入賞するには数多くの海外遠征を経験する必要が有ると思います。日本のハンドボールが毎年変わる様にヨーロッパのハンドボールも毎年変わっていくそのながれを知るのにも遠征が必要です。次の目標が世界選手権ならば、それまでに海外遠征するとか外国の強豪チームを呼ぶとかしなければ、現状と、かわらず、外国チームと並ぶ事は出来ない。理屈だけでは、誰がハンドボールをやっても出来る、外人選手との体のぶつかり合いで、覚えるものだと思う。そして数多くの国際試合のキャリアが、日本チームを世界に通用させる近道だと信じます。（FP、本田技研鈴鹿）

柴田　正章

ベストエイトに日本が進出するには、日本協会の〝考えかた〟を再検討する必要があるように思う

金を出して、遠征に参加して、負ければ監督におこられ、協会の首脳陣にブツブツいわれる。こんな〝悪循環〟でいい結果が生まれるわけはない。

勝利ということがなにになるのだろうか。女子バレーの山田監督の話しではないが、勝って金杯をもらってなにになるというのだろう。名誉って何だろう。名誉では食えないし、住めないし、着れないのである。

国内での試合をしていてもあまりの客の少なさにみじめになってしまう現在、もっともっと日本協会がPR宣伝をし、また、金を集めてハンドボールの発展にあたらなければ、たとえベストエイトに進出しても日本のハンドボールの人気は出ないと思う。

私は日本の実力を世界の五、六位と見た。しかし勝てないのである。それは対外試合の少なさにある。島国というハンデはあるかもしれないが、できるだけの遠征、それができなければせめて二、三人をヨーロッパへ派遣し、ビデオをとってくるくらいの努力を日本協会はしてくれてもいいのではないだろうか。初めて見、初めて対戦して勝ち方がわかるわけがないのである。

すき勝手にズケズケと書いてみたが、これが今の私の〝ほんとうの気持ち〟である。（GK・本田技研鈴鹿）

穂積　豊彦

欧州諸国の強さは誰もが知っていることだろう。そして日本がい

警備のなかのオリンピック

蒲生　晴明

各国選手団の色とりどりのユニホームが、鮮やかな列をなし選手村を出発、ゴルフ場の中を五百メートル行進すると、UFOを思わせる様な巨大なメーンスタジアムに到着した。そのゲートをくぐった時、私は「これが、オリンピックか!!」と、その偉大さ、スケールの大きさに何とも言えない興奮をおぼえました。観衆のどよめき・拍手・声援、これらが一体と成り、すばらしいハーモニーに〝変身〟して耳に入ってきましたが、モントリオールの生んだ天才的音楽家アンドレ・マシュウの神秘的な音楽がそれを一層高め、開会式を盛り上げていました。今でもあの音が聞える様な気がします。

今回のオリンピックは、警備がきびしいと聞かされていましたが実際見聞してみると感心させられるほどでした。練習会場へ行くバスでも、前後に一人づつ軍人が、自動小銃を持ってこしかけ、会場に着くまでは、監禁状態でまるで護送車に乗っているよう。そうしたなかで道行く人に、手を振ると応えてくれるカナディアンが大勢いたことは嬉しい思い出です。選手村、会場への入出には、IDカード（身分証明）が必要で、そのつど調べられ、時には、手荷物の点検、ボディーチェックといったふうに、大変厳重でした。

すべては、ミュンヘンのゲリラ事件に端を発し物々しいムードの中で我々は、プレーしたわけですが、本場ヨーロッパはもちろんのこと、アメリカ・カナダのオリンピックというタイトルに賭ける執念も、大変な物が有りました。

アジアにおいてもイスラエル韓国が、力をいれて来ていることも重なり、これからの日本もより一層の努力が必要なことを痛感したモントリオールオリンピックでした。

（FP・中大4年）

オリンピックの魅力とこわさ

本田　洋

スポーツのとらえ方は国家によって異る。オリンピックはスポーツにおいて国と国との戦いであり、自由主義体制の国家と共産主義体制の国家との力の見せ合いとも言えます。個人主義を根本において国家繁栄を計ろうとする自由主義国家のスポーツにおいては、企業又は商行為としてのプロと経済行為としてのアマチュアがあるが、体育を国防の基盤として、国民教育の最も大切なものとしている共産主義国家のスポーツにはプロもアマチュアもない。このように異なった条件、環境で育成された国々の代表が選手村に集まる。

各国の選手を見て痛感したことは戦いにおける姿です。父母兄弟を愛し、国を愛するが為に幾多の苦難を乗り越えて来た自分自身に、尚、一層の叱汰をかけて戦う。そして、勝利をおさめた者が祖国に向かって凱旋してゆく。

戦いが終ると、勝者も敗者もこれまでの国の代表として苦しかった道のりを思い浮かべ、自分を誇りとし、名誉として、勝てば喜び、負ければ慰めているように見えました。

オリンピックが終り、帰国の折、残念に思ったことがあります。オリンピックに出場した日本のある選手が、勝つことに努力しても社会的に報われないと発言しているのを新聞で見た時です。

国家あげてスポーツを国民教育として、強く取り組んでいる共産主義諸国の選手達が持つものが、誇りと名誉であるのに対し、日本選手が持つものは、報酬がなければ価値がないとする所です。

これは共産主義諸国に勝つことの出来ない精神や考え方ではないでしょうか。日本が誇りとした日本魂と言う言葉は、現代、理解されていないのではないでしょうか。

自己を愛することは人一倍あるが、経済的なものと天秤にかけれなければよろしくないと言う考え方ではないでしょうか。

日本が世界に勝てる選手の精神は誇りと名誉だけで良い。報酬があるから出来るのであるならば、報酬がなければ出来ない。無い所から始められて、作られて来た歴史の土台は、先輩達の国を思う気持と、それを誇りとし、名誉とする精神であったはずである。今や、それら土台を築かれた先輩達は金と時間を与えてやれば、もっと前進してくれるだろうと真剣に考えてくれる。

しかし、その土台を知らずして、花を咲かすことは出来ないと、私は考えます。（GK・大阪堺工高教員、大阪イーグルス）

藤中、中井公式戦出場50回

日本協会は、モントリオールオリンピック出場で全日本男子の藤中憲二選手（FP・大同特殊鋼）が公式国際試合出場51回中井武三選手（FP・大同特殊鋼）が同50回をマークしたと発表した。

藤中は43年6月のハンガリー戦(ブタペスト)、中井は44年3月のアイスランド戦(パリ)が初試合。

公式国際試合出場50回以上は木野(湧永薬品)、本田（大阪イーグルス）についで史上3、4人目。藤中、中井両選手には記念トロフィが贈られる。

かにして欧州諸国と戦い勝つかということになると思う。まず体格の差をなくすのは無理として、それを補う為にスピードをもって対処することだが、オリンピックでもそうであったが、体力がない為後半までそれを維持することができない。そこでオフェンスとディフェンスとを別々にしてゲーム展開をするのも一つの案だと思う。合宿等で体力をつける練習をするのだがやはり日頃のトレーニング特に筋力トレーニングが不足しているように思われる。次に一番大切なことだと思うのが、海外遠征特にヨーロッパ諸国と多く対戦することだと思う。日本は島国の為困難なことはわかっているが現状のままでは、いつまでたっても、一歩二歩のおくれはやむをえないといえる。アメリカもヨーロッパに遠征したとみえ、今オリンピックでは昨年のプレ・オリンピックとは比べものにならないほどのオフェンス力とディフェンス力をかねそなえてきていた。やはりハンドボールの最先端をいくヨーロッパで様々なことを勉強しとり入れていかなければ日本ハンドボールの進歩はありえないだろう。それから、直接関係ないかもしれないが、日本の現状をみると若手の育成をもっと真剣に考え、その場をできるだけ多く指導してやることが大切だと思う。そしてモスクワオリンピック対策を系統だてておし進めることが必要なのではないでしょうか。最後にベストエイトは近い将来必ず実現すると思う。

（FP・湧永薬品）

日本男子の成績

▽予選リーグA組

●	16――26	ソ連
●	16――19	西ドイツ
●	17――21	デンマーク
●	22――26	ユーゴ
○	25――19	カナダ

〔順位〕⑤日本

▽9～10位決定戦

○	27――20	アメリカ

〔通算順位〕⑨日本

☆……今号掲載以外の男子オリンピック代表6選手のリポートは次号に掲載しますのでご了承下さい

京都で帰国報告試合

男女オリンピックチームによる帰国報告試合は8月8日京都府立体育館に千五百人のファンを集めて行われ、代表チームが貫録をみせ、全日本実業団選抜を押し切った。

なお、オリンピックチームは男女ともこの試合終了後、解散した。

▽女子

オリンピック代表 15（8－5、7－7）12 全日本実業団選抜

▽男子

オリンピック代表 31（13－6、18－10）16 全日本実業団選抜

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

新潟ハンドボール協会長
近　藤　薬　局
柏崎市東本町２丁目
TEL 02572—2—2604

スポーツ用品　体育器具全般
あけぼのスポーツ用品店
名古屋市昭和区北山本町１—９
（曙町１交叉点南）
TEL (052)731—5267　733—2344

大きな夢　豊かな暮らし
生活に密着したアルミ容器の総合メーカー
武内プレス工業株式会社
代表取締役　武内宗八
本社工場　富山市上赤江町７丁目10番１号
TEL 0764 (41) 1856 (代)
大阪工場　神戸工場・東京営業所・名古屋営業所

愛知県ハンドボール協会推薦
ゴールドキング印トレーニングパンツシャツ製造発売元
有限会社　小　林　産　業
名古屋市西区平出町 367 番地
〒452 TEL (052)501—7028

オニツカタイガー用品・スポーツ服装・専門店
株式会社　イナガキスポーツ
名古屋市東区水筒先町４—４
TEL　052—935 {5075 / 8110}

一般運動用品　　体育施設
株式会社　北野屋スポーツ
柏崎市東本町１丁目　TEL 02572（３）2345，5013

板　垣　工　作　所
和歌山市広瀬中ノ丁２の21
TEL 0734—23—5394

トヨタと共に躍進するセントラル
クラウン，コロナ，ライトバン，救急車
セントラル自動車株式会社
ハンドボール部
〒229 神奈川県相模原市大山町４番12号
電話・相模原局（0427）72—6111（大代表）

福井県ハンドボール協会
会長　伊　藤　仁　和

日産石油化学株式会社
〒290 市原市五井南海岸11番地
TEL（0436）21—6111（大代表）

暮しの必需品をお安く奉仕!!
これがマスダのテーマです
ショッピングデパート
マ　ス　ダ
社長　増田　一（茨城県ハンドボール協会顧問）
茨城県水海道市宝町２７７１

筑波山頂の豪華なリゾート・ホテル
国際観光旅館連盟会員・日本交通公社協定
政府登録　山　水　荘　ホ　テ　ル
茨城県筑波郡筑波町１０５１
電話(02986)6—0721（代表）
東京案内所（03）231—2642

皆さんお元気ですか。茨城国体で福岡チームをお世話した石黒です
政府指定米穀
集荷業者　石　黒　商　店
代表取締役　石　黒　信　義
茨城県水海道市渕頭町２９１４
電　話（02972）３—1511（代）

長野県ハンドボール協会長
戸　塚　一
長野県佐久市岩村田
TEL 02676—7—2400

株式会社
木　下　組
常務取締役社長
県ハンドボール協会副会長　木下　秀夫
本社・長野県佐久市中込146—1

思い出の富山チームの皆さん。また合宿にでもお出かけ下さい。
フルヤコンクリート工業
取締役会長
市商工会長　古　谷　国　三　郎
茨城県水海道市中妻町
電話（02972）２—0077

なつかしい富山チームの皆さん，今年も頑張って下さい
石　塚　建　材
代表取締役　石　塚　信　一
茨城県水海道市中妻町９３２
電　話（02972）２—１７１８

包　装　資　材　卸
株式会社　サ　ガ　ネ　商　店
代表取締役社長　嵯峨根　宏　行
京都市上京区丸太町千本東
TEL（075）811—5161

京都府ハンドボール協会
会長　木　下　彌　三　郎

京都府ハンドボール協会
副会長　立　石　孝　雄

「モントリオール」の思い出

12人の選手誰もが、苦しんだ予選とそれまでの日々
12人の選手誰もが、酔いしれたという大観衆の開会式
12人の選手誰もが、日本ハンドボール界の成長を願う

女子代表選手寄稿

主将 島田 夏枝

四年前のミュンヘン大会の時出場した男子の晴れやかな顔を、そしてその活躍ぶりを見「素晴しいなあ、ぜひ女子も」とオリンピックに憧がれたその日がつい先日のように思えます。その女子の正式決定が伝えられ、モントリオールを目指したチームが結成されたのが三年前でした。その後数次の合宿を経、昨年二月の韓国戦から始まり、大会直前のアメリカでの予選まで、出場権を得る為にはいろんな事がありました。

しかし、オリンピック出場は自分達に与えられた責任だとの各選手の自覚と協力、そしてまわりの人々の暖かい励ましでここまで来れたのだと思います。

今大会を振りかえってみて、これまでパワーでおすのが、ヨーロッパのハンドボールと感じていたのですが、上位四チームとも速攻とサイド攻撃に重点を置いており昨年暮れの世界選手権から半年の間に攻撃パターンがぐっと変わっているのに目を見はりました。攻撃技術では今の日本が他国に劣っている点はなく各試合の得点を見ても上位チームと大差はないのですが、失点が最下位チームより上回っているのです。大型のディフェンス要員養成が必要だと強く感じました。

オリンピック、世界選手権と六年間に四回も世界的な大会に出場するチャンスに恵まれたのですが一度目より二度目と欧州との差は縮まっていると肌で感じます。オリンピックでも自分達の力はフルに発揮出来ましたし、他国と互角に戦える自信もつきました。自分達がこのように自信を持って対戦出来たのはやはりこれまでの経験にあったと思います。体の大きな相手に感覚がちがいとまどった初めての遠征から六年、その間の経験がオリンピックまでつながったものでしょう。良い成績を上げるにはまずその経験、場数を踏み自分の体で覚える事が一番必要な事でしょう。今後ますます国際試合の場は多くなると思いますが、数多くの選手が世界の舞台で活躍出来るような機会を積極的に作って欲しいと願っています。

最後になりましたが、今大会出場までに、いろいろな面からご指導、ご声援下さいました方々に厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。（FP・立石電機）

古佐原ひろ子

4年に一度のスポーツの祭典、オリンピック。それも女子ハンドボールは80年になる近代オリンピックの歴史の中でも今回が初めてとあって、私たちも大いに意欲を燃やしていましたが、栄光の大会へ出場するにあたっては「3大陸予選」を突破しなければならず、6月21日の出発は、かつてない緊張したものとなりました。

しかも、アメリカに着き試合が近づいても、コンビネーションが合わず、全員がイライラ。なんともいいようのない気持ちにおそわれたものでした。

そうした精神状態におかれていたせいか、予選が始まるとかえって落ち着いたのですが、第1日にアメリカを観て、半年前より、サイドスプレーに速さが加わり、パポストなどヨーロッパ遠征の成果ともいうべき強引性を増し、チーム力を引きあげているのに驚ろかされ、新たな緊張に見舞われました。

しかし、試合をしてみると思ったよりも楽にオリンピック出場権を手にすることができたのです。勝利の決まった時は、実に長かった合宿や密室試合、そのほか強化遠征の苦労がやっと実を結んだという感がいにふけり、その感激は忘れることのできないものとなりました。

本大会——オリンピックでは男女共ソ連の圧倒的な強さに目を見はらされました。なんといっても選手層が厚く、個性的な選手をうまくかみ合わせ、スピード、豪快なシュートプラス体格と万全でした。日本はルーマニア戦で一点差共産国に後一歩と言うところまで近づけましたが、逆に我々が得意とする速攻を、相手に研究つくされ、かつての威力がなくなってきたようにも感じられます。

男女オリンピック出場をはたしたのをきっかけとして、日本におけるハンドボールがますます盛んになることを期待したいと思います。（FP・東京重機工業）

蔵田 照美

この一年間というもの私にとって何もかも犠牲にしてオリンピック出場だけにすべてをかけてきたような気がする。とくに今年に入ってからは自分のチームに落ちつく暇もなし合宿々々におわれ、練習がつらい時には誰のためにこんなきつい練習ばっかりやらなければならないのだろうか、心の中ではわかってるつもりでもつい目標を失い弱音をはいてしまう、そんな時も何度かあった。

でも、私にとってオリンピックは夢であり、そして、これから女子ハンドボールの発展のためにもオリンピック出場は大きな意味がある、それを果たすのは代表に選ばれた者の使命でもあると考えなおして練習をつづけた。自分の心は定まっても私たちチームの立場は厳しかった。三大陸予選で勝たないことにはオリンピック出場はただの夢だけで終ってしまうのだ。去年の三月、密室試合までして勝ち取ったアジア代表権を無駄には出来ない。オリンピックについて考えるのは予選に勝ってからだと自分自身に言い聞かせる〝戦い〟は苦しいものであった。

去年の暮れ世界選手権の順位決定戦でアメリカ・チュニジアとは対戦の経験があり、しかも日本が勝っていたものの、今回はアメリカの地元で予選を行うという事とオリンピック代表決定戦という言葉が必要以上に自分を固くし、これまでの国際試合の中でもっとも緊張し、責任を感じた試合となった。試合が終り、オリンピック代表権を得た瞬間はうれしいというより、正直いってホッとした気持

が強く一瞬力が抜ける思いでした

モントリオールの選手村へ入る頃はもうオリンピックに対しての心構えも出来て、これから、ほんとうの東欧ハンドボールとの過酷な戦いが始まるんだと思いあらたなファイトが湧いていました。

オリンピックではやはりこれまでの世界選手権とは違い、とまどいもあったが、いざコートの上に立った時はオリンピック代表選手に選ばれた喜こびをあらたに感じゲームに対する意欲もわき、思いきり動け、自分のもつ力を充分発揮する事が出来ました、

それも、これまで数多くの国際試合の経験が一つ大きい自信につながったのだと思います。これからナショナルチームを担う若い人達にも是非出来るだけ多くの国際試合の経験を希望します。最後になりましたが、協会関係者の方々にオリンピック出場をなしとげるまでに大変ご苦労をおかけ致しました事を心からお礼を申し上げたいと思います。（FP・モントリオールオリンピック女子個人最多得点選手、立石電機）

和田　祥子

オリンピックという世界の祭典で初めて女子ハンドボールが採用され、日本のハンドボール界にとって記念すべき歴史の一ページをつくる者の中に自分が参加出来たことはとても光栄に思います。

オリンピックを目指す全日本女子が結成されて二年半余り、その間に、世界選手権のアジア予選、モスクワの世界選手権そしてオリンピックのアジア予選から三大陸予選と何度かの海外遠征やその為の強化合宿を重ねていくうちに各チームからの寄り集まりのチームからいつの間にか、何でも言い合える、全く遠慮のない一つのチームになっていました。

そんなことは当然のことなのですが、だからこそ、オリンピックを目指そうという気持ちに全員が一致できたのであり、三大陸予選を乗り切れた時の喜びは大きかったのだと思います。

ミルウォーキーに乗り込んでから予選までの約10日間は、オフェンス、ディフェンスのコンビがなかなか合わなかったり、精神的な重圧感みたいなものがあってとても苦しい10日間でした。しかし、一人一人の自覚、何としてもモントリオールに行くんだという気持ちが良い方向に作用して、4戦全勝という結果を生むことが出来ました。

もちろん勝つことには、日本を発つ前から自信もありましたが最終のアメリカ戦が終った時は思わず涙が出るほどうれしかったのです。これで先づ自分たちの責任を一つ果たせたという思いでした。世界選手権とは違い、世界中のアマチュアスポーツマンが国のため？いえ自分自身のために闘うのは感動的です。

誰もが勝つために集まってきたオリンピックで私たちは東欧諸国の強豪を相手に敗れはしましたが思い切り戦いました。

相変らず世界の壁は厚い。東独などはいつの間にか日本のプレーの長所を盗んで身につけているのです。体格差のある選手に、速いパスまわしやブロックプレー、そして速攻などを出されてしまうのですから最初は戸惑いました。ただ、今だに自分たちのプレーを守り続けているルーマニアには一点差まで迫ったのですが、勝つことが出来なかったのが悔しいです。ヨーロッパのハンドボールはどんどん先に進んでいます。今、多くの若いハンドボールマンにはもっともっと視野を広く持ってほしいと思います。井の中の蛙でなく、常に眼を外に向けていてほしいと思います。その気持ちを持った上でプレーを磨いてゆくのです。その為の資料も豊富にほしいものですが……。体格差やそれによるパワーの差は確かに大きいものですが決してそればかりではないはずです。

GKの場合で言えば、少しぐらい体が小さくてもゴールの大きさだけフルに動ければ、あとは試合のかけひきで自分の位置のとり方やシュートのコースを読む力を身につけるのです。と同時にスピードのある重いシュートに対し、押しこまれることのない様な力強さも必要です。オリンピックの決勝では男女ともソ連が優勝しましたが、その原動力としてGKの力はとても大きなものでした。日本の課題は今までも、そしてこれからもディフェンスの強化だと思います。その一つとしてGKの強化ということも大きな課題だと思います。モントリオールでの私たち女子ハンドボールの場合は幸いにも参加することに意義があったのですが、4年後、8年後、12年後にはメダルをねらえる様な日本のハンドボールであることを願ってやみません。今回私たちが大きな使命をなし終えたことは私たちの力だけでなく、全国に居られる関係者の方々のおかげと深く感謝して居ります。本当にありがとうございました。（GK・立石電機）

久保　徳子

今回のモントリオールオリンピックに女子ハンドボールが始めて取り入れられて私は幸運にもその一員に選ばれて参加しました。いまー カ月半をおもい浮べて、やはり私の心の中に浮ぶのは、ミルウォーキー市でおこなわれた三大陸予選で勝った時です。あの時こそほんとうに感激し、体の中の血が引くような気分になり、涙が後から後からこぼれ、勝ったという事以外何も頭に浮かばずしばらくしてやっとオリンピックに出場できるという実感がわいてきました。三大陸予選で、アメリカチームは去年の十二月の世界選手権の時よりも力をつけ、ヨーロッパに近いプレーをみせました。でも日本チームの得意とする速攻や、クィックプレーがまさり、自分達の特技を充分に発揮でき勝つことができましたが、私たち同ようアメリカやチュニジアもオリンピック選手団に入ることのためすさまじい意欲であったことを痛感しました。

モントリオールは予想以上に警備が厳重で、毎日の練習場通いも軍隊がバスに同乗しての行き帰りでしたが、選手村は各国のカラフルな人達でとても楽しく規模の大きさも又格別でした。

夢にまでみた開会式。ひとあしグランドにふみいれた瞬間、言葉でいいあらわせないくらい感激でいっぱいでした。

競技ではソ連、東ドイツ、ハンガリー、ルーマニアはさすがに共産国だけあり壁は厚く、一つもやぶることが出来ませんでした。特にソ連のディフェンスの壁が厚く

すこしのつけ込むすきもなく、突きはなされるばかりでした。最終戦のカナダチームに一勝し五位に終りましたが、私達は満足のいく結果だったと思います。共産圏諸国と対等に戦うには、日本の独特のプレーに体格、パワーをプラスしてゆくことが必要で、次のモスクワ大会には好結果がえられるのではないでしょうか。

　私達もこのことを課題としがんばって行きたいと思います。

　最後に全国のハンドボール関係の皆様から温かい熱意とご支援を賜りましたことを深く感謝し厚くお礼申し上げます。（GK・ジャスコ）

山下恵美子

　いつもテレビにかじりついて、日本選手の活躍を、手に汗を握りながら応援していたオリンピック大会。まさか自分の足で開会式の地を踏める等とは思いもよらぬ事でした。感激の一日だった開会式三大陸予選で優勝した時は、ちっともピンと来なかったオリンピック出場という実感が、一歩一歩行進する毎に、私達も、今確かに日本選手団の一員なのだという喜びと共に、胸の底から歓びがこみ上げて来ます。全日本結成から約二年半、国内の大会が終ると、恒例の強化合宿、よく怒られ、よく走らされました。一本のシュートミスの為、全員がシュートノックを受けたり、体が重たいからと、お昼ヌキで練習をやったり、苦しい思い出もいろいろです。何度もプレー面で壁にぶつかり、精神面で挫折しそうになったりしましたがそれを克服出来たのは、やはりチームメイトの友情であり、やらねばならないという自分達自身の自覚でした。

　アジア代表決定戦、三大陸代表決定戦と、次々に難関を突破出来オリンピックという最後の目標にたどりつけた時、これまでいろいろお骨折り頂いた協会関係の方々や、全国のハンドボール愛好者の方々の、喜んで下さっている顔が思い浮ばれ、新たな闘志を胸にモントリオールへ向いました。世界選手権大会では、予選トーナメントの為、決勝リーグに残らない限り、世界のトップクラスの強豪相手に試合する事は出来ない訳ですが、今回は六カ国リーグ戦で、世界チャンピオンの東独をはじめ、初めて対戦するソ連、ハンガリーチームにどこまで食い下がれるか大きな期待もありました。国のカラーがそれぞれ違うように、そのチームカラーもさまざまで、体格的にも一番恵まれていて、パワーがあり、ディフェンスの荒さはきたないプレーと思える程で、勝つ為の試合をやったソ連チームが印象的でした。

　一遠征ごとに世界のプレーも変っています。強豪になればなるほど、よく走り、よく動き、今では日本の得意とする速攻もコンビネーションプレーも吸収されています。今回改めて見直したプレーはサイドプレーヤーのシュートテクニック、ディフェンス面での技術向上でした。今までになく、サイド攻撃が多く、強引に攻めてはPTを狙って来ます。それに加えて勝負に賭ける執念、勝つ為の気迫に満ちた取り組み方には、私達も見習うべき点があったように思います。オリンピックという世界の桧舞台で悔いのない試合が出来たのも、皆様方の暖かい御支援の賜物でした。本当にありがとうございました。（FP・立石電機）

松下　仁美

　六月二十一日、羽田出発！。ただ漫然と渡米するのではなく、オリンピック出場を賭けた三大陸予選を勝ち抜き、本大会―モントリオールオリンピックへ出場する目的をもって私達は旅立った。昨年の世界選手権でアメリカ、チュニジアと戦い、勝っているだけにある程度の自信はもっていたが、やはり、彼女らの半年間の成長ぶりが心配である。出場権を獲得しようと闘志を燃やして戦ってくるだろう。その責任感は私達の胸の中にずっしりと占めていました。

　予選が始った時は時差ぼけもなく、体調は上々。一戦一戦勝ち進むにつれ、私達の夢は近づくのです。それにともなう緊張……。

　印象に残ったのは、七月三日のアメリカとの最終戦、相手は負けてもともと、という気持ちで強引につっ込んで来る。地元だけあって審判もこちらの反則はほとんどペナルティを取り、両チームともエキサイトした。

　激しいゲーム展開のすえに終了の笛。私達は第一の難関を突破した。『これでアベック出場ができる！』と思うと何か熱いものがこみ上げてきた。

　夢にまでみたモントリオールに着いたのは七月五日の午後、パトロールカーに先導され選手村入りゲートから中に入いる時にも厳しいチェックがあり、警備の厳しさに、驚くことばかりでした。

　グレーのワンピースを身につけた私達を待っていたのはたくさんの報道陣。日本選手団の中で一番乗りということで、外人記者にもたいへん興味をもたれました。これからの十日余りは第二の目的―一つでも多く白星をあげることを目標にトレーニングを積み、本番を前にルーマニア、東独とも練習ゲームをやった。

　選手村の生活にも慣れ、食事に

も満足していた。又、夜になると屋外劇場がにぎわい、ダンス、ロック・コンサート、バレエなどが夜半の静けさをふっ飛ばし、すべてがひとつに溶け合う場もあった11階のベランダからその日に入村した国の国旗を数えるのも楽しみでした。国旗がほぼそろった七月十七日、いよいよ開会式。選手村を出てメーンスタジアムまでの道の両側にもたくさんの人が見物に来ていた。スタジアムへ一歩踏み込んだ時の感激。スタンドは満員多くの人が日の丸の旗をふって、私たちに声援を送ってくれましたあの時のうれしさ、今も目の前に浮かんできます。又、ステファン君とサンドラさんが聖火台に駆け上り、トーチの火を聖火台に燃えうつしたあの瞬間、体中がジーンとするのをおぼえ、この時初めて『私はオリンピックに出場しているのだ』と思った。いつも口では言っていたが遠い存在だったオリンピックに参加している私。幸運だなァ……と思いました。

さて、大会で気付いた事は、共産圏のすばらしいロングシュートとともにサイド攻撃が多くなった事です。自分の身体を生かし、そして相手ディフェンスを〝利用〟してシュートする。ゴールインかペナルティになる動きがどのチームにも見られました。日本は攻撃はA級だと思いますが、やはりディフェンスに課題を残し、それが五位という成績で終ったのだと思います。

最後に、この遠征に対し協会、また関係者の皆様からの御声援、御協力ありがとうございました。

（FP・ジャスコ）

日本女子の成績

▽３大陸予選
- ○20—９　チュニジア
- ○23—17　アメリカ
- ○18—８　チュニジア
- ○19—12　アメリカ

▽モントリオール・オリンピック
- ●18—25　ハンガリー
- ●10—24　東ドイツ
- ●20—21　ルーマニア
- ●９—31　ソ連
- ○15—14　カナダ

〔通算順位〕⑤日本

小森久里子

四年に一度しかやってこないスポーツ選手最高の名誉ともいえるオリンピックにつながる三大陸予選の代表に決まった時、私は始めての海外遠征である事の不安と、日本代表の一員として頑張らなくては、という緊張で胸がいっぱいでした。

三大陸予選の時にさえ、外国チームとのパワーの違いに驚ろかされた私が、本大会では、ハンドボールのお家元ともいうべき欧州と試合ができる。私にとっては、すべてが初めてだし、貴重な体験ができると、身体じゅうから何かがこみあげてくるような感じでした。

オリンピック!! すばらしいものでした。今まで、テレビでしかみた事のない開会式に今自分が出てると思うと、信じられない気持ちでした。

メインスタジアムに一歩足を踏み入れた時のあの感動、体の中を冷気がスーッと走るのを感じました。

オリンピックでの記念すべき第一戦はハンガリーが相手でした。ハンガリーは攻撃型のチームで新しいチームだそうですがディフェンスも積極的で、自分達の足は思うように動かず、逆に日本のお家芸である速攻をかけられてしまいました。体力的なものの違いから日本の目先をかえた変化のあるプレーを持続できなかった事が残念に思いました。東独やソ連には、やはり「力足らず」という感じで体力はもちろん、技術・ボールの扱いがまったく違うように思われる場面が常でした。この両チームは日本の弱点もよく知っていました。今でも残念に思われるのはルーマニア戦です。一点差でも負けは負けなのですが、かつての世界チャンピオンと互角に戦えたという事は、私達にとって大きな自信であり、これからの日本の女子のハンドボールに大きな希望ができたと思います。

最終戦のカナダとはアメリカよりも一歩出おくれているという事で安心はしていたものの、やはり地元、客席の応援や緊張からおもうように動けず、やっとの思い一点差で勝ち、五位の座を獲得しました。

ふりかえってみて、欧州の一角をくずすような試合ができなかった事や、国際経験の未熟さ、体格差からくるハンデなど反省する所はたくさんありました。

また今後はアジアでのハンドボールの普及が盛んになるにつれ日本が目標にされると思います。そうなると次のモスクワの時には、日本はますます激しい競争を生き抜かなければなりません。ハンドボールに限らず、日本は今、選手の層が非常にうすいし、ことハンドボールに関しては選手生命が特に短いと思います。それは食生活から始まって環境の違い、公共施設の不充分さなど数々あると思うのですが、日本人のスポーツに対する考え方を今一度、ふりかえって考えなおすべきではないかと思います。

最後になりましたが、このオリンピック出場までに多大な御苦労をかけてきた関係者の方々に心より感謝したいと思います。（FP・ブラザー工業）

加藤美起子

八月十七日。それは忘れもしないオリンピックの開会式の日である。超満員のスタジアム、小さな日の丸があちこちで振られ、拍手が湧きあがる中を夢心地で行進したトラック。高々と響きわたるファンファーレ。初めてのアベックランナーによって、聖火台に火がともされた時、今日までのことー韓国でのアジア予選、イスラエルとの密室試合、昨冬のキエフでオリンピック予選を兼ねた世界選手権、オリンピックへの最後の命綱であったミルウォーキーでの三大陸予選までが長く険しかったことーが走馬灯のように流れ、胸がジーンと熱くなったのを覚えています。

大会はミュンヘンでのゲリラ事件を二度とおこすまいと厳重な警戒の下に進められましたが5試合の中では空からのヘリコプター、パトカーの先導、尾行と異常なまでの厳重な警備に守られ、三時間もバスに揺られて着いたケベック市でのルーマニア戦が印象に残ります。前回の大会で攻撃力が互角でありながらもペナルティーでの失点数で惜しくも涙をのんだ相手だけに、今日こそはと闘志満々。前半の出足は良く11—13と2点差後半も予断を許さぬ白熱したゲーム展開で、「積極的な防御」すな

わち、ポストにパスを通させないような足を利かせた防御が効を奏し、それが攻撃力への自信につながり、20—21という好ゲームを行うことになったのではないかと思われます。

日本人固有の俊敏性を生かしたクロスからのクイックシュート、ブロック、鋭いカットインあるいはスカイなどのフォーメーションプレーが成功した場合は、相手が東欧のトップでも充分対抗できる自信を得たのはよかったと思います。

上背のある外国チームに対しては、失点を最少限に押さえさえすれば、攻撃力のある日本だけに、〃共産圏の壁〃を破る日も間近いことを感じると共に、これから先の日本の女子ハンドボール界にとって画期的な大会であったとはいえ、大きな収穫ではないでしょうか。

史上初のオリンピックにおける女子ハンドボール——このような幸運な時代に、プレイヤーとして大会に参加できたことは私にとってこの上ない喜びであると同時に今日まで未熟な私を指導して下さいました先生方、諸先輩に対し、誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。（FP・日本ビクター）

穂積美保子

スポーツをする人は、誰でもが一度は参加してみたい、アマチュアスポーツの最高の栄誉であるオリンピック。そのオリンピックに女子のハンドボール競技が初めて取り入れられ、それに出場することは、並大抵のことではありませんでしたが、代表を決める最終試合であった三大陸予選も全勝という成績で勝ち抜きました。昨年の世界選手権で、アメリカ、チュニジアには、勝ってはいるものの、試合が終わるまでは、安心できませんでした。オリンピック決定の時は、夢にまで見たオリンピックが今、私たちの目の前まで、来ている。我われの第一の目標であったものが今叶えられた喜びで一ぱいでした。

選手村に、日本選手第一号として入った時のあの〃感じ〃は、一生に一度の出来事だと思います。今までブラウン管を通してしか見たことのない世界を生で見、生でふれた感激は何ものにも変えがたいことでした。開会式の感激もまた忘れられない思い出でした。

試合の方は、やはりヨーロッパの壁は厚く破ることは出きませんでしたが、近いうちヨーロッパの一流チームに勝てる様な気がする内容もありました。

日本の女子もだんだん体格も良くなり外人並の選手が出てきているので、力と技術の伴ったプレーが出きれば、ヨーロッパのチームにもかかならず勝てる日が来ると私は思います。これまでの国際試合を良き経験として今後一層、頑張っていきたいと思います。（FP・日本ビクター）

河田　栄子

「オリンピック」という言葉、「日本代表選手」という言葉。今までは偉大で手の届かないものでした。

それが、ミルウォーキーでの予選を勝ち抜き〃私のもの〃になったのです。

代表に決まった時は感激と同時に重い責任を感じました。

三大陸予選を終えて、その足でモントリオール入り、日本選手団の中で私達がオリンピック村へ一番乗りでした。さすがにオリンピックというだけに広く大きく、設備や管理が行き届き目を見張るばかりでした。しかしモントリオールオリンピックは色々政治問題が絡んでいると聞いただけあり警備は厳しく、練習場への行き帰りは兵隊が車に同乗し重苦しい気分でした。

開会式も始まりいよいよ入場行進。胸はドキドキ、足はガクガク感激のあまり胸がつまり息苦しくさえ感じました。これがオリンピックの開会式、一生の想い出として忘れることはないでしょう。

外国選手との対戦は初めてではありませんが、やはりオリンピック、総べての面で気を使い試合中でも上ってしまい自分が何をしているのか分からなくなる時がしばしばありました。もう先輩の後をついているだけで精一杯、でも試合に出してもらって、自分が得点した時はほんとうに嬉しかったです。

私達は一生懸命に戦いました。これから日本のハンドボールはもっともっと大きく引き上げられると思います。私も今回の遠征で本当に勉強になり、これを基に大いに頑張ってゆきたいと思います。

最後に皆様方に御指導御支援を頂きまして、深い感謝の気持でいっぱいです。本当にありがとうございました。（FP・ジャスコ）

紀野奈々美

三大陸予選を四戦四勝と全勝しオリンピック出場権を獲得した瞬間、私達は泣き笑いの顔で肩を叩き合った姿が今も強く、心に残っています。

去年の韓国遠征から、誰もいないイスラエル戦、世界選手権と今回の予選を経て、目の前のチャンスを意地でもぎとるんだという気

迫、そして全員の和。皆の力でつかんだオリンピックでした。でももちろん皆様方の暖い御声援が何よりの力添えになったと思っています。本当にありがとうございました。四十日間の長い遠征でこの日、七月三日が一番忘れられない日となりました。

その足でモントリオールへ乗り込み、報道陣、地元関係者からの歓迎を受けました。

開会式では、御来賓のエリザベス女王をはじめとして何万という観客の中を行進する自分が自分でない錯覚を起こすなど、今思うと開会式そのものには感動しなかったのですが、観客の数に酔ってしまったという感じです。

ゴルフ場の一角にある選手村は金網で囲まれており、そんな中での軍隊の厳重な警戒は異様なほどでした。又、村での出入り、生活行動、練習、試合会場などの移動警備隊が凄かった事、常に軍隊に見守られて生活を送ったのも忘れられぬ思い出です。

昨冬の世界選手権、今回のオリンピックの各試合を通して感じた事は、体格差、テクニック、パワーの違いが明きらかで、共産圏の壁を破るのは今のままではむつかしい問題だと思います。

日本特有のプレーをどうみがきあげるかが課題で、私自身は、先輩達の動きを見て勉強するという場面が多かったのですが、オリンピックという名誉ある大会を自分の目で見、体験出来た事はこの上ない幸運なチャンスに恵まれたと思っています。

今大会で得ました反省を課題にしまして自分自身のため、又日本のハンドボールに少しでも役立ちますよう一層努力を重ねて頑張りたいと思っています。

（FP・立石電機）

両陛下に拝謁 女子チーム29日に

【速報】オリンピック初参加で5位入賞をはたした女子ハンドボールチームが、9月29日午後2時から皇居で天皇、皇后両陛下の拝謁をうける。

これは、オリンピック入賞者（チーム、個人）に対する恒例の拝謁会で、ハンドボール関係者が皇居に伺い両陛下にお目にかかるのは史上初めてのこと。

当日は、井薫監督と12人の選手全員がオリンピックで着用したブレザーコートを再びつけて伺い、記念写真、拝謁、宮中茶話会などに出席の予定である。

対共産国、男女で3勝

公式国際試合の記録

日本協会（編集委）はモントリオール・オリンピック終了現在によるナショナルチームの公式国際試合について、次のようにまとめた。

男子は、今回までで7人制の公式戦が85試合・32勝4分49敗（勝率39・5％）（注、ほかに11人制3戦1勝2敗）

女子は55試合・24勝1分30敗（勝率44・4％）。

男子で、最も多く対戦している国はイスラエルで10戦（7勝2分1敗）、これについでユーゴ8戦（1勝1分6敗）、ソ連6戦（6敗）となっている。

女子は、西ドイツとの7戦（2勝5敗）が最多で、ルーマニア（5戦5敗）がつづく。

日本が苦手とするいわゆるヨーロッパの共産圏との対戦は男子が33戦（8カ国）2勝2分29敗、女子が19戦（6カ国）1勝18敗とはっきりりブの悪さを示している。

また、個人の公式国際試合出場数はオリンピック出場選手はいずれも男子が6、女子が9試合プラスされたため大きく増え木野実（湧永薬品）が71と史上初の70台をマーク、本田（大阪イーグルス）61、藤中（大同特殊鋼）51、中井（大同特殊鋼）50となっている。

女子は、島田（立石電機）と古佐原（東京重機）が40と史上最高の数字、山下、蔵田（ともに立石電気）が32、和田（立石電機）31、松下（ジャスコ）21が主なところ。

＜注＞「公式国際試合」とは、①国を代表するチーム（ナショナルチーム）同士の対戦②審判員は第3国③試合記録をIHFに届出るものとされている。日本では②③についてはこれまであまり厳格ではなく、明きらかにトレーニングマッチ（練習試合）として行われた試合以外は、「公式」に扱っている。

東独の名スプリンター シュテヒャーが転向

UPI＝共同電が伝えたところによると、3年前女子陸上百メートルで10秒9をマーク、初めて11秒の壁を破った選手として名高い東ドイツのR・シュテヒャーが、モントリオール後の国際陸上競技会を最後に陸上界から身を引き、今後はハンドボールのナショナルチームに加るという。

同選手はモントリオールでは百で2位、二百で3位だった。

東ドイツ女子ハンドボールチームには現在、メキシコオリンピック女子水泳400メートルリレーの一員で銀メダルを得たR・クラウゼがレギュラーとして活躍している

東ドイツ女子は、日本協会の来年度招待外国チーム候補の一つであり、水・陸の名手による異色コンビを、日本のファンは見られるかもしれない。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

「金」もいらぬ、「銀」もいらぬ。せめて「6〜8位」が欲しい!!

〜モントリオール大会をみて〜

光島　磯雄

昭和51年7月28日、カナダモントリオール市センタークロードロビヤール体育館で日本対カナダ（女子）の一戦がおわったとき会場に居合わせた日本人はすべて異口同音に深いためいきを吐き出したものである。

日本男女チームは7月18日以来渾身の力をもって欧州圏という高くて厚い壁に体当りしてははねかえされることの反復に終始したのである。僅かにハンドボール経験の浅いカナダとアメリカには勝利を得たものの、これは「予定通り」と考えれば日本ハンドボール自体の進歩と認めるには一寸苦しい感じで慰さめにはならない。過去のミュンヘン大会、DDRでの世界選手権などと比較した場合進境はみられないのである。もとより予選を勝ちぬいて桧舞台にのぼるまでの各位の努力に対しては言語につくせぬ尊敬と謝意を表明するには決してやぶさかではない。しかし頂点強化対策の結末がこのようなものであったことについて種々の角度から反省をひき出し、今後の日本ハンドボールの新しい方向を占うことは全ファンの重大関心事である。

試合はやってみなければわからぬとは常々誰でも言ったり聞いたりする言葉であるが、誰がはたして対ルーマニア戦（女子）があのような接戦になると想像したであろうか？　1点差なのである！　これほど1点の重みを感ずるものはない。5位と4位の差なのだ。

端的に言うならば、過去何回か本番の舞台に出場して男女共「善戦すれど所詮及ばず」の悲哀が再びくりかえされたのである。「ぐち」も言いたくなるというものである。つらつら思うにオリンピックの中間年に遠征による東欧圏チームとの対戦経験が10試合ないし20試合程度でも身についていたら男子は8位か7位、女子4位は可能ではなかったかとボヤクのは私だけであろうか？

海外に出ずとも国内での切磋琢磨により強い根性と技は体得出来るとしてもそれにはおのずから限度があろう。

なるほどミュンヘン大会までは備蓄した財源により遠征合宿による強化は一応成果をあげたと言えるが、あれから4年、財源は乏しい、世の中は不況、国際関係の複雑化などによる環境の大きな変化は否定出来ないが、4年の年月はミュンヘン大会までに育てあげた資産（選手層）はすでに老化、消耗、脱落しつつあり、ジリ貧の一途をたどっているといわれても仕方のない様相をみせはじめている

藤中選手の八面六ぴの活躍ぶりを見て思うことは「若手は何をしているか！」となってしまうのである。

国内での競争、メンバーにえらばれるための競争はもとより大切である。しかし欧州遠征――ビジターチームとして勝利を目指すという本場での競争心を養なうのに十分といえるかどうか？

4年後のモスクワへ向けての姿勢はどうなるのか？

これだけははっきりしている。今までと同じようにやって行くとしたら、出場出来たとしても9位以下（男）は必定である。極論かも知れぬがあえて申し上げよう。財源が乏しい、そして大方の意向がかりに底辺の普及拡大にあるとなるならば現在の財政下ではもう勝つための強化遠征など不可能である。オリンピックにしても世界選手権にしてもアジア予選通過すら危い状態となろう。私自身ももちろん頂点強化と底辺拡大は表裏不可分のものと考える。

それゆえ再び標記の語を強調したい。

日本は「金」もいらない、「銀」もいらない。まして銅メダルも不要である。最も手近なもの、すなわち6位〜8位の位置を実力でたたかいとってほしいのだ。そしてそのためにはどうすれば良いかを考えるべきときなのである。

今回のオリンピックは近代ハンドボールがはじめてアメリカ大陸において注目を浴びたという点は大きな意義あるものと思うが、技術的にはさして新しいすぐれたものが披露されたわけではない。めぐまれた体格から生ずる力と力の激突場面が多くみられただけだ。

女子を見て特に感じたことは最盛期の田村紡績チームの動きを思うとこれはまさしく欧州チームにみられぬ全く異質の特色あるものであり、今後これにプラス体格そしてキャリアという競技力向上策を講ずるならば東欧圏の一角を崩すことはそれほど遠いことではないと思うのである。

男女双方に言えることであるが高い厚い壁に対する攻防に耐える肉体的精神的要素を一層増進させるための基礎技術についてのトレーニングをハンドボールテキストに織り込んで若い人達に理解熟達をはかるとともに、選手断層の出来ない体制を打樹てるべきである

又有能で旺盛なる研究心向上心を持つ者に対しては海外研修の機会を斡旋するなどのことも考えてはどうであろうか。

審判の点で気付いたことあり。従来の伝達講習には全くなかったと思われる吹笛あり、それはオフィシャル席の計時がバスケットボールに似たタイム管理を実際にやっていたのだ。これなども知ってしまった以上応用利用しなければ海外での試合に馬鹿をみることになると思うが、協会審判部におかれても確認方おねがいしたい。

なおニューヨークで東京銀行勤務の浅野和郎氏と旭化成KK勤務の本田勝亮氏（ともに京大OB）の両氏に会う機会を得たが、浅野氏は過日の女子チームのミルウォーキーでの試合に際し、物心両面にわたって東京銀行の名のもとに懇篤なる援助の手を差し伸していただいたとのことを知り個人的に心から御礼を申し上げておいた。

ついでにペンを加えるが、学生ハンドボール連盟傘下チームのOB名簿を毎年収集して今後の海外遠征などにも役立てることが出来るように配慮したらどうか。

稿をおわるにあたり、全国のハンドボール愛好者各位に心からおねがい申し上げたい。

「みんなで日本ハンドボールの位置を少しでも高いものにするため」という機関誌前号の末尾の言葉をもう一度かみしめてみようではないか！

（投稿）

大阪イーグルス堂々の6連覇（通産11度目）

第19回（女子第4回）全日本教職員選手権は8月9日から12日まで青森県上北郡の野辺地高校体育館などで行われた。

40チームが参加した男子は，予想どおり大阪イーグルスが千葉，兵庫などの食い下りにあいながら勝ち進み決勝でも2年ぶり2度目の顔合わせとなった茨城を押し切って6年連続通算11度目の優勝を遂げた。

5チームによる女子は4連勝有力とみられた大阪を降した岩手の初優勝。

女子は岩手 全日本教職員選手権

静岡、神奈川に逆転勝ち
佐野工教職員健闘実らず

▽男子・1回戦

岐阜教員 19（9—7 10—5）12 山口県教員団

千葉教員 32（16—5 16—2）7 鶴陵ク（北海道）

栃木教員 18（12—3 6—6）9 大阪教員クB

福島教員 19（11—8 8—2）10 佐野工教職員（大阪）

埼玉フェニックス 20（14—5 6—5）10 福井教員

山梨教員 21（13—7 8—6）13 青森ヤング教員

若楠（佐賀）17（10—5 7—8）13 和歌山教員

岩手教員ク 18（7—8 11—7）15 東京教員

○……佐賀若楠×和歌山がもつれた。先手は佐賀がとったが、和歌山は前半10分すぎから巻き返し、後半15分まで先行しつづけた。

佐賀は後半18分どうにか13—12と逆転したが、和歌山は19分吉田で同点、そのあと佐賀は21分柳本24分小松で逃げ切った。

栃木×大阪Bは7—7から栃木が4点連取、主導権を握り、埼玉×福井も後半開始直後、埼玉のたたみかけが勝負を決めた。

異色の佐野工教職員は、15分まで互角の戦況だが、しだいに走り負けた。しかし、全員のひたむきな試合ぶりは、すがすがしさを感じさせた。今後の活躍を祈りたい

▽2回戦

埼玉教員ク 15（6—5 9—7）12 長野教員

三重教員団 26（10—6 16—6）12 秋田教員

新潟教員 30（18—7 12—4）11 青森キング教員

スワロー兵庫 28（15—10 13—3）13 東京スターズ

茨城教員 17（7—8 10—5）13 愛教ク（東京）

ロイヤルスワロー（兵庫）23（12—9 11—5）14 北海道日体ク

宮城教員 23（11—6 12—9）15 香川教員

静岡県教員団 22（15—7 7—11）18 神奈川教員団

大阪イーグルス 21（12—4 9—1）5 岐阜教員

千葉教員 31（20—3 11—2）5 和歌山教員B

栃木教員 20（12—8 8—9）17 熊本教員

愛知教員 23（12—9 11—7）16 福島教員

大阪教員ク 21（11—7 10—3）10 埼玉フェニックス

宮崎教員 22（11—8 11—4）12 山梨教員

佐賀若楠 27（16—11 11—5）16 群馬教員

オールドイーグルス（大阪）24（14—10 10—6）16 岩手教員ク

○……静岡が後半8分9—14の劣勢をはね返し注目された。9分小林で4点差としたあと、寺田が1分おきに連続5点をあげ逆転、そのまま突っ走った。神奈川はダブルポストを活かしてせっかく先手をとりながら、後半拙攻で自滅したのは悔やまれよう。

栃木×熊本も好試合。一進一退の前半から僅かに押し気味の熊本は後半17分16—14とリードをつづけたのだが、栃木は20分16—16と粘ったあと川田、伊藤のコンビが相手守備陣を切り崩し、勝利をもぎとった。

茨城×愛教クは、愛教クが6—11とされながら立ちなおり、銅城を中心に後半11分12—12とした。しかし、茨城も15分すぎ立原、中村で加点、突きはなした。

埼玉×長野は12—12で迎えた残り6分、埼玉が地力を示して制勝

このほか、GKのオリンピック候補として最後まで代表争いをつづけていた斉藤が秋田のFPとしてプレー、3点を叩き出し話題を集めた。二チームを送った青森はともに姿を消しコートサイドをさびしがらせた。

"オールド"力つきる
千葉、三重を後半一気

▽3回戦

大阪イーグルス 22（13—1 9—5）6 埼玉教員ク

千葉教員 18（9—1 9—8）9 三重教員団

栃木教員 32（17—6 15—6）12 新潟教員

スワロー兵庫 18（8—8 10—1）9 愛知教員

茨城教員 14（8—4 6—4）8 大阪教員ク

ロイヤルスワロー 19（10—4 9—5）9 宮崎教員

佐賀若楠 29（8—12 21—6）18 宮城教員

静岡県教員団 25（16—12 9—4）16 オールドイーグルス

○……ベテランで固めた前年準優勝のオールド・イーグルスはさすがに力つきた。

立ちあがりいきなり3—0とした時は「今年も…」と思わせたが静岡は前半10分から積極的な攻めで相手のペースをたち切った。

千葉×三重は後半5分10—9と緊迫したが、そのあと三重の守りが荒れ、速攻、サイドと攻め口多彩な千葉が一気に攻めまくった。

茨城×大阪は、後半、大阪の反撃が注目されたが、茨城は15分までに4点を積みあげ、主導権を放さなかった。

イーグルス×埼玉は、ピタリと食い下っていた埼玉に、前半終了前の二本のPT（失点）は痛く、後半はイーグルスの一方的な展開になす術がなかった。

熱戦期待のスワロー×愛知は、前半愛知の攻守がまったく不調で後半のせりあいを空しいものとした。スワローは同門ロイヤルも巧みな試合運びで快勝した。

千葉、イーグルス苦しめる

▽準々決勝

大阪イーグルス 11（6—2 5—7）9 千葉教員

得	【大阪】		【千葉】	得
0	本田	GK	林	0
		GK	風間	0
2	高橋	FP	笹原	2
0	池本	FP	松	0
0	足羽	FP	内記	1
2	安達	FP	稲生	0
0	橋本	FP	篠塚	0
3	河原崎	FP	上坂	1
1	早川	FP	佐藤	0
3	福井稔	FP	浅原	3
0	北居	FP	氷海	2
0	福井孝	FP	古屋	0
11	(1)	PT	(1)	9

（審・森 勝山）

○……3—0と好スタートを切ったイーグルスだったが千葉は20分すぎ3点を奪って優位に立ち、後半2分には8—5と点差を拡げた。
しかし、イーグルスは焦らず好機を着実に活かして15分8—8、このあと千葉は一度リードをとったがイーグルスもすぐ取り返し、残り2分間に河原崎、早川が決めて逃げこんだ。千葉の善戦が光る試合で、後半2分から15分間無得点の拙攻がなければ、と惜しまれる。（柏崎　茂）

スワロー兵庫 18（7—8／11—4）12 栃木教員

○……スワローは、後半1分同点のあと阪本、矢辺が交互に得点、17分には16—10と主導権を握った

得	【兵庫】		【栃木】	得
0	松野	GK	高橋	0
0	馬場	GK		
0	中村	FP	大出	0
8	矢辺	FP	山本	0
2	畑	FP	中山	8
1	井上	FP	伊藤	2
3	松岡	FP	河先	0
2	藤田	FP	川田	1
2	阪本	FP	二宮	1
0	黒田	FP	住森	0
0	米田	FP	山下勝	0
0	西川	FP	山下宏	0
18	(2)	PT	(1)	12

（審・遠藤 柏崎）

栃木は立ちあがり4—1、そのあと5—7とされながら、前半終了間ぎわ中山、二宮らで8—7と逆転するなど元気いっぱいなところを見せたが、後半はじめパスの乱れをつかれて相手に速攻を許したのが拙かった。（畠山　正）

茨城教員 38（17—6／21—1）7 ロイヤルスワロー

得	【茨城】		【スワ】	得
0	大村	GK	上野	0
0	谷萩	GK		
4	池田	FP	栗山	0
7	立原	FP	北山	0
5	中村	FP	大原	2
5	高野	FP	浜野	3
2	大川	FP	折戸	0
5	福永	FP	大嶋	2
3	松金	FP	小林	0
2	細谷	FP		
4	中山	FP		
1	根本	FP		
38	(3)	PT	(1)	7

（審・岡田 八重樫）

○……持ち駒、スタミナ目いっぱいのロイヤルはスローペースに相手を誘おうとしたが、茨城はその手に乗らずスタートから激しい攻撃を仕掛けて押しこみ、10分8—0あっさり勝負の行方を決めた。（五島訓二）

佐賀若楠 22（10—7／12—8）15 静岡県教員団

得	【若楠】		【静岡】	得
0	清水	GK	原	0
0	鶴丸	FP	入山	0
0	井上	FP	杉山	5
4	柳本	FP	寺田	1
1	吉田	FP	細沢	4
5	小松	FP	矢吹	0
0	久保田	FP	小林	5
3	川原	FP	板倉	0
5	仲里	FP	井上	0
4	磯口	FP		
22	(3)	PT	(0)	15

（審・五島 矢作）

○……動きの速い好試合。互いに持ち味を活かして進み後半10分14—11と予断はまだまだ許さなかったのだが、余裕のある佐賀若楠はこのあと相手の僅かな乱れをついて小松、仲里、柳本と連続ゴールしたのが利き、ここが勝負のヤマ場になった。
静岡も攻撃はまずまずだったが連続失点する守りの甘さが一つの敗因であった。（加藤正彰）

茨城、佐賀に攻め勝つ
スワローはリード空し

▽準決勝

大阪イーグルス 11（5—5／6—2）7 スワロー兵庫

○……過去3度優勝戦となっている好カード。手の内を知りつくしての対戦で、容易に主導権を握れなかったが、前半ノータイムのFTで5—5としたスワローは、後半4、6分に加点、7—5と先行優勢となった。
しかし、イーグルスはGK本田の立ち直りから着実に盛りあげ二本のPTで同点のあと、13分高橋で逆転、残り6分3点を加えて突き放した。スワローはリードしたあと攻めが消極的となり、そこをつけこまれた。（森　恭一）

得	【大阪】		【兵庫】	得
0	本田	GK	松野	0
		GK	馬場	0
3	高橋	FP	中村	2
1	池本	FP	畑	3
0	足羽	FP	井上	0
2	安達	FP	黒田	0
1	橋本	FP	松岡	1
0	河原崎	FP	藤田	1
1	早川	FP	阪本	0
3	福井稔	FP	矢辺	0
0	北居	FP	米田	0
0	福井孝	FP	西川	0
11	(3)	PT	(1)	7

（審・永山 斉藤和）

茨城教員 23（7—7／16—6）13 佐賀若楠

得	【茨城】		【若楠】	得
0	大村	GK	清水	0
0	谷萩	GK		
3	池田	FP	鶴丸	0
1	大川	FP	井上	0
2	立原	FP	柳本	4
6	中村	FP	吉岡	1
1	高野	FP	小松	3
1	福永	FP	久保田	1
2	松金	FP	川原	1
6	根本	FP	仲田	2
1	細谷	FP	磯口	1
0	中山	FP		
23	(0)	PT	(1)	13

（審・斉藤実 千野）

○……二カ月後に地元で国体を開く佐賀。練習量も充分のようで後半2分8—8、そのあとの展開は体力的にも有利かと思えた。
しかし、茨城は3分立原の得点を口火に速攻からあっという間に6点を奪い8分14—8、あっけなく大勢が決まってしまった。
佐賀は攻めの失敗後、帰陣が遅く取返しのつかぬ失点となった。（岡田豊夫）

▽3位決定戦

スワロー兵庫 19（10—12／9—3）15 佐賀若楠

○……2点を追うスワローは後半6分までに4点連取、そのあと1点差に詰められたが、すぐに2点を加えて引きはなし乱戦に結着をつけた。佐賀は4日間6試合という不運な日程にもめげず真面目なプレーで好感がもてたが104失点という守りが課題。
スワローの3位は2年ぶり。（加藤）

前半で崩れた茨城

▽決勝

大阪イーグルス 23（9—6／14—5）11 茨城教員

得	【大阪】		【茨城】	得
0	本田	GK	大村	0
		GK	谷萩	0
3	高橋	FP	池田	2
3	河原崎	FP	立原	1
4	福井稔	FP	中村	5
4	池本	FP	高野	0
3	安達	FP	大川	1
2	足羽	FP	福永	0
2	北居	FP	松金	0
0	福井孝	FP	根本	2
2	早川	FP	中山	0
0	橋本	FP	細谷	0
23	(1)	PT	(1)	11

（審・千野 斉藤実）

○……この大会では一昨年につづき2度目、国体でもいちど決勝で対決。いずれもイーグルスが勝っている。
茨城の気力は前半20分4—5と互角の戦況になって表れた。

歴代優勝チーム

○……男　子……○

①	昭33	茨城教員ク
②		東京教員団
③		神戸ストーク
④	昭36	休会
⑤		大阪教員ク
⑥		大阪イーグルス
⑦		大阪イーグルス
⑧		大阪イーグルス
⑨		大阪イーグルス
⑩		大阪イーグルス
⑪		埼玉教員ク
⑫		東京教員
⑬		埼玉教員ク
⑭		大阪イーグルス
⑮		大阪イーグルス
⑯		大阪イーグルス
⑰		大阪イーグルス
⑱		大阪イーグルス
⑲	昭51	大阪イーグルス

○……女　子……○

①	昭48	大阪教員
②		大阪教員
③		大阪教員
④	昭51	岩手教員

（注）男子第6回（昭38）の大阪イーグルスは当時「大阪教員団」と呼称

しかし展開力に優るイーグルスは、そのあとPT、河原崎、安達で8―4と差を拡げ優位をとった。この3点は5分足らずであげたもので、茨城としては、そこまでの食い下りを一気に振り切られた感じであった。

こうなるとイーグルスは強い。後半、茨城のパスの乱れをことごとく自軍の好機に結びつけて加点10分13―7、20分18―8とした。

茨城は、いちど握られた主導権を奪いかえす闘志にかけ、決勝戦だけにもう少し頑張って欲しかった。（畠山）

☆ベストセブン
▽GK 本田 洋（大阪イーグルス）
▽FP 福井 稔
中村 博之（茨城教員）
大川 洋司
畑 憲作（スワロー兵庫）
柳本 英雄（若楠）
氷海 正行（千葉）

大阪、4連勝成らず

▽女子・1回戦（1試合）
岩手教員 16（8―3 8―2）5 岐阜女子教員
▽準決勝
愛知教員 16（8―1 8―3）4 芙蓉ク（兵庫）
岩手教員 14（8―5 6―3）8 大阪教員

○……4連勝を狙う大阪が敗れる波乱。激しいせりあいから先に自分のペースをつかんだのが岩手。特に守りのよさは大阪につけこむスキを与えず、その一方で橘が好機を活かしポイント、焦る大阪を押し切った。

▽3位決定戦
大阪教員 20（19―0 1―1）1 芙蓉ク

得	【芙蓉】		【大阪】	得
0	丸茂	GK	榎本	0
		GK	吉田	0
0	北村	FP	中村	2
0	藤原		福田	8
1	西岡		沢田	4
0	山本		辻	2
0	国近		名賀	2
0	森本		津熊	0
0	小田		畑中	0
0	大和川		太田	1
			繁田	1
			大谷	0
1	(1)	PT	(1)	20

（審・岡田、八重樫）

▽決勝
岩手教員 10（7―3 3―3）6 愛知教員

○……1―3とリードされた愛知は浦崎の連続ゴールで同点、さらに後半9分にはPTで5―4と初めて先行したが、岩手は10分すぎようやく動きに滑らかさが出て11分橘で5―5、さらに高橋、三浦川井と追い討ちをかけてペースを奪い返し、守りも立ちなおって愛知に追加点を許さず、15分すぎ二本のPTでダメを押した。

得	【愛知】		【岩手】	得
0	美濃島	GK	安藤	0
1	山田	FP	三浦	1
0	細川		中島	0
0	富田		川井	1
0	梅田		岩間	0
4	浦崎		橘	5
1	石川		寺田	0
0	中原		高橋	3
0	杉浦			
6	(3)	PT	(2)	10

（審・永山、斉藤和）

決勝としてはいささか大まかな内容だったが、大阪一辺到だった優勝戦線に岩手が食いこんだのは大いに賞されよう。（長内和男）

投書欄 明日への提言

TVでの放映増加を

モントリオール五輪で女子の競技が開始されたことは、たいへん喜ばしいことでしたが、男女ともテレビでの放映が非常に少なかったのは残念でした。

せっかく世界の最強チームが勢揃いしているのに、テレビ放映が少なくては、その高度なテクニックを見ることができません。日本での国際試合も少ないし、テレビで見るくらいしか我々には、その技にふれられないのです。

しっかりしたハンドボールをよく知ったコーチのいないチームでは、独自に練習法を開発してやっていますが、それではやはり限度があるし、NHKのテレビスポーツ教室と、こうした国際試合や、その他社会人、大学などの試合から学びとらなくてはなりませんが、これもやはり見るだけではとてもとても……。

今、行なわれている〝土曜のつどい〟も、我々から見れば、ぜひとも必要な指導の一つですでも東京だけではなんともなりませんから、一日も早く全国で開いてもらいたいものです。

【京都市・湯浅哲也・高校生】

次期国体から「教員」廃止

日本協会は、国体の全県参加種別の設定にもとずく、種別の改正とチーム数配分について、全国（都道府県協会）からアンケートを求めるなど検討を加えていたが、9月18日の月例常務理事会で成年男子を一般、教員に分けず一本化することを正式に決め、次回の全国代議員会へ報告する。

この結果、38年の第18回山口国体からつづけられていた教員部門は今秋の佐賀国体を最後に姿を消すことになる。

来年の青森国体以降80チームを47、11、11、11に分配するが、47をどの種別にあてるか、11のうちの1をどこに振り分けるか、日本リーグ加盟チームの参加などは今後なお研究される。

成年男子の一本化でこれまでの教員チームは、一般として出場できるし、教職員が一般チームに加わることも可能になる。

HONDAは無公害時代のパイオニア!!

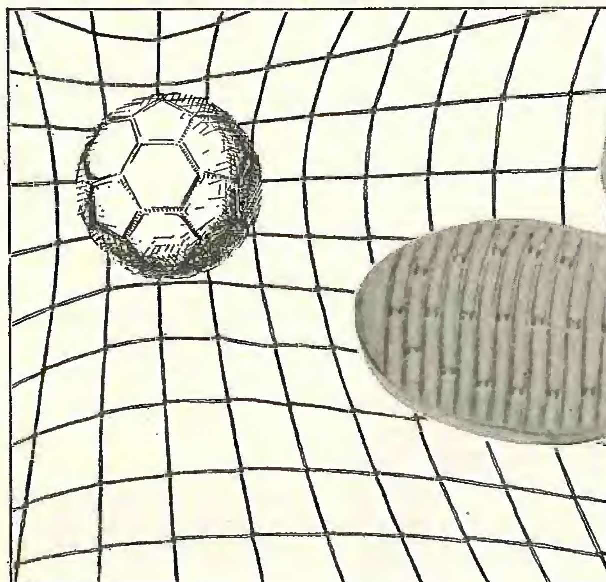


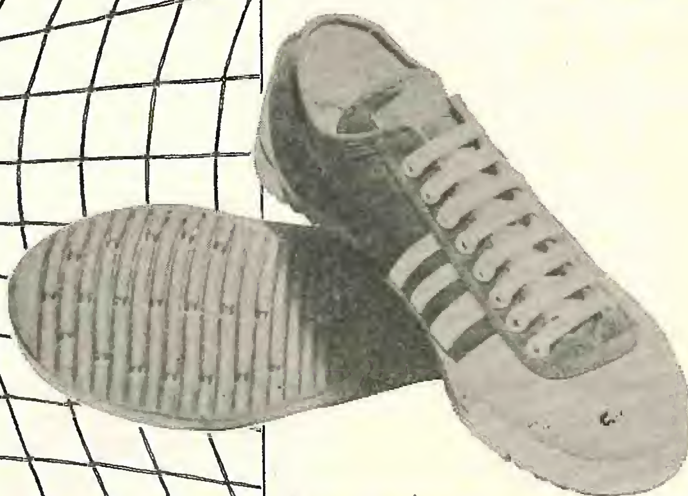
《世界のホンダ》を支えるホンダイズムとは
フェアプレイを土台にした“先駆者の精神”
です。先人の追従でなく、あくまでも自らの手で
よりよい製品をより早く世に出すこと………それは
究極的にはスポーツ精神と同じ“自分との闘い”です。



本田技研工業(株)鈴鹿製作所
三重県鈴鹿市平田町1907 ☎<0593>78-1212 〒513

ファイトを更に、かきたてる信頼感。

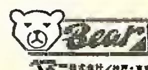




ハンドベアー デラックス 〈HX〉

●サイズ／22.5〜28●カラー／ブルー・ゴールド●¥2,900
■姉妹品／ハンドベアー(革)●¥6,500

●横すべりやロスを解消するための斜線模様の合理設計底。(意匠登録390270号)
●適度の弾性を得る二重スポンジ・クッションの彫りの深い厚底。
●通気性にすぐれ、快適な足沿いと軽快な履き心地のために、疲れの少ないシューズとして好評をいただいております。



ベアー株式会社／神戸・東京

全国中学生大会

生駒（奈良）と氷川中ク（熊本）に栄冠

5年目を迎えた全国中学生大会は8月16、17の両日大阪市中央体育館に全国各地から推された男女各16チームが集り、熱戦をくりひろげた。

今年から参加数が増え（注・前年までは男女各10）決勝まで2日間4試合という日程であったが、とどこおりなく進行された。優勝は男子が生駒（近畿・奈良）、女子が氷川中ク（熊本・九州）。女子の熊本勢はこれで3年連続1位となった。2連勝を狙った鶴城ク（熊本）は決勝で惜敗。

本文中、スコア横の氏名は今回のエントリー（KはGK FはFP）

男子

▽1回戦

氷見西部（北信越・富山）18（7−4、11−8）12 御東ク（東海・愛知）

（氷見西部）K向、片山、F松田光安、山崎、瀬戸茂、山本、大坑、西山、中原、坂、斉藤、南瀬戸政、水上

（御東）K加納、井上、F衛藤、井坂、三輪、徳山、宮下、上条、大原、早川、近藤、伊藤、下村田村、大川

昭島スポーツ少年団（関東・東京）10（3−5、7−4）9 松橋（九州・熊本）

（昭島）K宮野、関谷、F実方、平井、小山、今堀、安藤、楠本西牧、中村、寺内、高橋、田中小林、来住野

（松橋）K吉田、池田浩、F城塚林田、下田、西山、池田孝、牧田、中川、佐伯、塚本、山下、大塚、高島

下松（中国・山口）12（6−2、6−3）5 釧路北（北海道）

（下松）K荒田、川田、F長江、弘中和、田中、小林、武居、斉藤、角、吉兼、弘中郁、通山、土田、網本、藤田、

（釧路北）K秋里、田名部、F大阪、池田、浅井、浅野、山崎、田中、上阪、黒坂、菅原、中沢

岩倉（近畿・和歌山）13（5−6、8−5）11 桜町（四国・香川）

（岩倉）K別当、前、F田首、新屋、岩本、土生、笠松、林、藤富、新谷、座間、宮井、山崎、

（桜町）K大谷、植松、F向井、佃、奥田、藤田洋、藤田浩、鈴木、山下、谷川、箭田、滝本

生駒（近畿・奈良）21（10−2、11−1）3 潟東（北信越・新潟）

（生駒）K高士、柿木、F吉田、辻、片岡、春見、山本、大原、生駒、竹内、増田、生野、迎谷福本、塩見

（潟東）K古川、小川、F中山、湯川、小林恒、竹内、大野、尾暮、加藤、斉藤修、西村、小林節、斉藤敏、小林巧、岡本

廿日市・呉選抜（中国・広島）15（9−6、6−2）8 平田野（東海・三重）

（廿日市・呉）K国広、津々、F田村、三宅、広瀬、平田、佐々木、吉田、寄田、上野、有馬、岩本、新田、村田、福永

（平田野）K上川、飯田、F高木平田、平子、久保、伊藤、安田石原、森、高山、鈴木、岡田、坂崎、細田

マリスト学園（九州・熊本）11（7−2、4−6）8 結城（関東・茨城）

（マリスト）K野崎、普天間、F高良茂、根路銘、安谷屋、大山大浜、高良昇、具志堅、玉栄、吉野、高本、仲宗植、神屋

（結城）K仁平、神田、F山田、程塚、本橋、鈴木、斉藤、川島井上、海老原、横島、平東、渡辺、池田、高木

茨木ク（大阪）15（5−4、10−5）9 郡山一（東北・福島）

（茨木）K乾、中口、F仲、大田秋田、山下、石崎、桜井、鈴木谷、東野、山口、山田、井戸木金保

（郡山一）K酒井、五十嵐、F安藤、伊藤、妹川、高橋、橋本、木村、遠藤、大藤、児玉、菅家梅沢、大河原、三野

▽準々決勝

氷見西部 15（5−5、10−2）7 昭島スポーツ少年団

岩倉 14（7−5、7−6）11 下松

茨木ク 16（7−5、9−6）11 マリスト学園

生駒 15（4−5、6−5、……3−0、2−4）14 呉・廿日市選抜

〃〃〃〃〃〃〃〃〃感動的な生駒×呉・廿日市戦〃〃〃〃〃〃

○……生駒×呉・廿日市戦は中学生大会史上に記憶されるべき熱戦だった。延長前、2点差になったのは後半8分呉・廿日市が8−6とした28秒間だけ、あとはつねに1点差あるいは同点という緊迫。延長になると、まず生駒が3点を連取、勢いにのった。

しかし、呉・廿日市も粘り3点を奪い返して13−13。

残り1分、生駒が再び先行すると呉・廿日市も追いつき、結着つかずかとみえたが、タイムアップ寸前、生駒の春見秀明君（3年）が劇的な決勝点をあげた。

両チームの健闘に、しばらく拍手の鳴りやまぬ感動的な好試合。

▽準決勝

岩　倉 13（6－5、7－6）11 氷見西部

生　駒 12（6－1、6－4）5 茨木ク

▽決勝

生　駒 13（6－4、7－8）12 岩　倉

得	【生駒】		【岩倉】	得
0	高　士	GK	別　当	0
0	柿　木	GK	前	0
3	吉　田	FP	田　首	7
3	辻	FP	新　屋	0
3	片　岡	FP	岩　本	3
1	春　見	FP	土佐川	0
0	山　本	FP	笠　松	0
3	大　原	FP	林	0
0	生　駒	FP	藤　富	0
0	竹　内	FP	新　谷	0
0	増　田	FP	座　間	0
0	生　野	FP	宮　井	2

（審・島崎・荒川）

13（0）　PT　（1）12

女　子

▽1回戦

小川（東北・福島）17（9－1、8－1）2 操南（近畿・岡山）

— 年次優勝チーム —

○……男　子……○

①	名古屋東港	（愛知）
②	名古屋笹島	（愛知）
③	大阪東陽	（大阪）
④	御　桜　ク	（愛知）
⑤	生　　駒	（奈良）

○……女　子……○

①	堺福泉南	（大阪）
②	堺福泉南	（大阪）
③	小　川　ク	（熊本）
④	鶴　城　ク	（熊本）
⑤	氷川中ク	（熊本）

（小川）K物井、佐藤幸、F今泉本田、大平久、大平千、松本、武田、渡辺、柴崎、黒沢、長尾佐藤泰、西山

（操南）K尾瀬、F花房、横山、千原、熊谷、山口、亀山

大平（関東・栃木）17（11－4、6－6）10 泉北ク（大阪）

（大平）K松橋、戸田、F鈴木光稲葉、岡本、鈴木敬、須田、森田、石塚、植木、須長、小久保長谷川、見目、須藤

（泉北）K〆渡、橋本、F井上、木寺、中林、野口、河原、伊藤吉井、宗方、新谷、小田、大川神浦、福田

氷川ク（九州・熊本）10（8－1、2－2）3 光陽（北信越・福井）

（氷川）K深川、鉄島、F永松、桑原、吉田、河田、増永、服田荒口、本田、久保田、安東、稲田、吉永、小野

（光陽）K岡崎、佐竹、F青山、中島、小栗、大黒、北川、北村稲田、末定、山崎、木村、室田渡辺、三津屋

名塚（東海・愛知）12（4－1、8－4）5 生駒（近畿・奈良）

（名塚）K山崎、杉山良、F服部堀部、土方、杉山清、長尾、神田、三宅、太田、松岡、山田、馬渕、木村、九鬼

（生駒）K阪本、吉田、F高原、都築、稲口、門田、磯本、岩田

林、遠藤、中井、上条、末吉、日向、三木

鶴城ク（九州・熊本）9（3－2、6－0）2 小松南部（北信越・石川）

（鶴城）K高浜、磧谷、F中嶋美野田、木下、山口、中山、佐藤成田、中島好、野口、池田、米原、岡部、田島

（小松南部）K尾田、竹本、F高林、大西、小田、谷口、宮野、橋本、上田、土山薫、藤田、土山友、吉岡、五十嵐、元

長森ク（東海・岐阜）〜抽せん勝ち〜 8（4－4、3－3……1－1、0－0）8 鳥屋城（近畿・和歌山）

引き分け

（長森）K高村、田辺、F平光、小酒井、川島、堀、伏見、坂井松下、大野、早矢仕、伏屋、後藤、久世、林

（鳥屋城）K木下、浦、F石本、坂井、横出、立石、森、藤原、井森、佐古、田和、浦川、栗栖

徳山住吉（中国・山口）4（2－1、2－2）3 玉造（関東・茨城）

（徳山住吉）K高橋、中石、F緒方、藤田、山本悦、倉本、軍場香山、国兼、山本多、木原、野間、徳原、渡辺、川井

（玉造）K石田、横須賀、F青木大輪、高塚、小野瀬、荒井、栗又、川崎、羽生、生井沢、塙

彦根西（近畿・滋賀）10（3－3、7－4）7 塩江（四国・香川）

（彦根西）K野瀬、田村、F浅居小倉、大矢、北川、貫名、久保田、吉原、卯部、歯黒、青野、津村、森

（塩江）K小笠原順、川田、F小笠原啓、中野、高尾、上田、赤松、藤沢、藤嶋、佐藤照、松本橋本、佐藤久、佐藤弘

▽準々決勝

大　平 18（8－6、10－1）7 小　川

氷川中ク 11（8－4、3－4）8 名　塚

鶴城ク 9（5－3、4－4）7 長森ク

徳山住吉 7（5－2、2－2）4 彦根西

▽準決勝

氷川中ク 11（4－3、7－4）7 大　平

鶴城ク 10（2－4、5－3……3－0、0－0）7 徳山住吉

▽決勝

氷川中ク 12（6－3、6－5）8 鶴城ク

得	【氷川】		【鶴城】	得
0	深　川	GK	高　浜	0
0	鉄　島	GK	磧　谷	0
6	永　松	FP	中嶋美	3
0	桑　原	FP	野　田	2
1	吉　田	FP	木　下	2
2	河　田	FP	山　口	0
0	増　永	FP	中　山	0
0	服　田	FP	佐　藤	0
0	荒　口	FP	成　田	1
0	久保田	FP	中嶋好	0
0	安　東	FP	野　口	0
3	小　野	FP	池　田	0

（審・松尾・井上）

12（2）　PT　（0）8

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

山梨社会人リーグ
韮　崎　ク　ラ　ブ
代表　横　森　　貞
事務所　韮崎高校内

山梨社会人リーグ
大　月　ス　ワ　ロ　ー
代表　西　室　　覚

株式会社　**大　　森　　組**
代表取締役　大森　七五三造
専務取締役　大　森　篤　範
北海道上磯郡木古内町本町83

共同舗装工業株式会社
株式会社　斉　藤　組
共同生コンクリート株式会社
専務取締役　斎　藤　八　郎
北海道上磯郡上磯町字七重浜192

グリーンコミニュケーション
エレクトロニクスで未来を招く
日本電気株式会社山梨工場
山梨県山梨市小原西843
ＴＥＬ05532—2—3111(代)

大垣市ハンドボール協会長
伊　部　良　男
岐阜県大垣市林町六丁目八〇番地
オーミケンシ株式会社大垣工場

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会長	清水晴次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳瀬準一	岐阜市茜部中島	二和家具工業取締役
理事長	森島清明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理事	隅田泰生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新村茂	岐阜市茜部中島	二和家具工業本店
	泉文俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安武英巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅野敏夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高橋省吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社　名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

全国高専選手権

一関（岩手）、大阪に雪じょくし優勝

第3回全国高等専門学校選手権大会は、8月23、24の両日新潟県柏崎一中球技場を主会場に全国各地域大会から選ばれた16校が集って行われた。決勝は前年と同じ一関（東北・岩手）×府立大阪（近畿・大阪）の顔合わせとなり、一関が雪じょくを遂げるとともに初優勝を飾った。

▽1回戦

府立大阪高専（近畿・大阪） 15（4—5 11—8）13 北九州高専（九州・福岡）

呉高専（中国・広島） 23（8—6 15—2）8 育英高専（関東・東京）

長岡高専（新潟） 16（4—6 12—3）9 宮城高専（東北・宮城）

沼津高専（東海・静岡） 18（8—0 10—5）5 釧路高専（北海道）

宇部高専（中国・山口） 27（8—8 19—4）12 富山工高専（北陸・富山）

鹿児島高専（九州・鹿児島） 13（3—7 10—4）11 高知高専（四国・高知）

桐蔭学園高専（関東・神奈川） 14（8—3 6—6）9 明石高専（近畿・兵庫）

一関高専（東北・岩手） 17（9—8 8—8）16 鳥羽商船高専（東海・三重）

○……前年の1・2位が苦戦した大阪×北九州は、1点をリードされた大阪が後半4点連取で8—5としながら振り切れず、特に終盤の勢いは北九州のほうが強かったが、大阪は要所で得たPTを尾野が活かしたのが利いた。

一関×鳥羽は、後半5分まで鳥羽が押し気味だったが、一関は後半10分14—12としたあたりから落ち着き、鳥羽の食い下りをなんとかかわし切った。

長岡×宮城は、宮城がせっかくの先行をスタミナ切れで失い、鹿児島×高知も、高知が後半10分まで8—5としながら、そのあと崩れて逆転負け、宇部×戸山も緊迫から一瞬で一方的な展開になるなど、チーム力がまだ不安定なことをあらわした。

▽準々決勝

府立大阪高専 18（9—10 9—6）16 呉高専

○……前半12分早くも9—1と大差をつけた大阪だったが、そのあと凡失を重ね後半17分には逆に14—16とリードされ危かった。呉の粘りはたいしたものだった。

しかし、大阪は守りの立ち直りとともに反撃に転じ21分〆渡で逆転、1分後ダメ押し点をあげ辛くも勝った。

長岡高専 20（12—2 8—5）7 沼津高専

○……長岡は前半10分から10ゴールして早々と勝負を決めてしまった。沼津は後半かなりまとまった攻撃を見せたが、前半の失点があまりにも大きすぎた。

宇部高専 20（11—4 9—5）9 鹿児島高専

○……速攻を活かした宇部は前半20分4—4から連続7ゴール。鹿児島は後半開始直後2点をあげて追いすがったが、宇部はそのあと4点を奪い勝負を決めた。

一関高専 20（9—4 11—7）11 桐蔭学園高専

○……前半15分すぎから一関は多彩な攻撃で桐蔭守備陣を崩して加点。桐蔭もよく練習をつんでいたがリードされてからは焦りをのぞかせ、追いあげられなかった。

長岡の善戦実らず

▽準決勝

府立大阪高専 12（6—5 6—6）11 長岡高専

得	【大阪】		【長岡】	得
0	渡辺	GK	乙川	0
0	松林	GK	岡田	0
2	尾野	FP	安達	1
1	清原	FP	金井	0
7	〆渡	FP	渡辺昌	0
2	中尾	FP	野崎	0
0	小田	FP	小林	2
0	仲井	FP	高橋	0
0	利川	FP	石塚	1
0	小川	FP	児玉	2
		FP	関川	5
		FP	渡辺勉	0
12	（0）	PT	（1）	11

（審・宮田・横島）

○……1点をリードされた長岡は残り5秒ノーマークの絶好機をつかみながら、大阪GK渡辺の好判断にあってつぶし、惜敗した。

立ちあがり〆渡の巧技で3—0と好スタートの大阪は、前半15分すぎから動きが鈍り、関川を中心に粘る長岡に追いこまれ、後半5分6—6のあとは一進一退となった。

しかし、同点にされてからはたえず先行した勝負強さが最後にはものをいい、23分清原のゴールが貴重な決勝点になった。

一関高専 14（6—4 8—7）11 宇部高専

得	【一関】		【宇部】	得
0	横手	GK	白井	0
0	泉	GK	加勢本	0
2	菊池文	FP	山根	1
1	木村	FP	神杉	1
6	菅野	FP	中村	1
0	村上	FP	宮田	5
0	柳原	FP	三次	0
3	小野寺	FP	大西	1
0	菊池修	FP	松本	2
2	千田	FP	西平	0
0	今出	FP	三戸	0
0	田代	FP		
14	（4）	PT	（2）	11

（審・阿部・加藤）

○……前半終了間ぎわ、二本のPTを決めてリードした一関を追って宇部は後半10分すぎから宮田が一人で4ゴール、20分11—11に追いついた。

一関は残り5分になって攻撃のリズムが整い、21分小野寺、23分菅野、24分PTとたたみかけて勝負を決めた。

宇部は前半惜しいチャンスを逃したのが悔やまれよう。

一関、後半はじめに主導権

▽決勝

一関高専 21（10—5 11—8）13 府立大阪高専

得	【一関】		【大阪】	得
0	横手	GK	渡辺	0
0	泉	GK	松林	0
1	菊池文	FP	尾野	5
5	木村	FP	清原	0
8	菅野	FP	〆渡	3
0	村上	FP	中尾	2
0	柳原	FP	小田	2
5	小野専	FP	仲井	1
0	菊池修	FP	利川	0
2	千田	FP	小川	0
0	今出	FP		
0	田代	FP		
21	（3）	PT	（0）	13

（審・越田・塚崎）

○……前年につづいての決勝。しかも両校ともほとんど変わらぬ顔ぶれとあって、激しい闘志をのぞかせた。

4—4の互角から一関は16分PTで先行したあと、木村のポストプレー、速攻などで5点を連取、GKの堅守も手伝って、ここで優位に立った。

後半、一関は二つのPTを含め6分までに4ゴール、14—5と完全に主導権を握った。

大阪も尾野のロングなどで反撃を試みたが、一関の気力、脚力は最後まで落ちることなく、みごとに前年の雪じょくを遂げ、初優勝となった。

全日本学生東西対抗

男女とも東軍勝つ

第26回（女子第8回）全日本学生選抜東西対抗戦は、会場をはじめて金沢市に移し、北信越学連の手により9月12日石川県体育館で行われ、男女とも東軍が昨年の雪じょくを遂げた。なお、男子は来年1月の第7回世界学生選手権（ポーランド）の代表選手考資料試合の一つとされた。

▽男子

東　軍　23（14－10　9－9）19　西　軍

☆…東軍は立ちあがり金沢の巧技で先制に成功、7分4－0と好スタートしたが、西軍も生駒の連続得点などで追いあげ13分4－5熱がこもった。

東軍は15分をすぎて、蒲生から鈴木、西窪に好パスが通り、ディフェンスの動きも固まって20分10－6と主導権を握った。

しかし、リードされても西軍は前年の自信から焦りをみせず、後半になると一気の反撃をみせ、8分高橋で15－15のタイとした。

そのあと東軍が泉、西窪で先行すると、西軍も高橋が射ち返して同点、集った二千ファン期待どおりの好試合になった。

東軍は15分すぎ2本のPTなどで3点のリード、粘る西軍は23分1点差に追いこみ、予断を許さなかったのだが、東軍は終盤関が好シュートを連発、振り切った。

実力は互角だったが、西軍は前半、個人技が集団プレーに結びつかず、たえず後手にまわってしまった。

通算成績は東軍の16勝10敗。

西軍追いつけず

▽女子

東　軍　9（5－2　4－3）5　西　軍

☆……東軍は山田を中心にまとまったプレーでスピーディな攻撃をみせ、二つのPTをはさみ20分5－1と優位に立った。

対照的に西軍は、相手の守りを切り崩す前にシュートを放って好機の芽をつぶし、10分のPTだけという貧攻、ハーフタイム前に、船橋のゴールでどうにか後半へ興味をつないだ。

後半、西軍は5分榎崎、7分佐野で1点差にせまったが、ここで東軍のプレス気味のディフェンスにあってペースを乱され、しかも9、13分岩本にゴールを奪われて7－4と再び点差が開いた。

西軍は17分福島が1点を返したが、東軍も18分山田、21分三沢で主導権をはなさなかった。

通算成績は東軍の5勝1分2敗

（金原　至・大会副審判長）

男女とも決勝は延長

第14回近畿地区国立大学体育大会ハンドボールは8月大阪で行われ、男子10、女子6校がトーナメントで優勝を争った。

▽男子1回戦（2試合）

神戸商船　11－10　大阪外語大

大阪教大　21－16　奈良教大

▽同準々決勝

京都教大　20－10　神戸商船

滋賀大　32－12　京都工繊大

大阪大　31－14　和歌山大

大阪教大　20－14　京大

▽同準決勝

京都教大　24－7　滋賀大

大阪大　31－14　大阪教大

▽同3位決定戦

大阪教大　22－16　滋賀大

▽同決勝

大阪大　22（10－5　6－11　2－2　2－2　1－1　1－0）21　京都教大

▽女子1回戦（2試合）

奈良教大　13（延）11　滋賀大

大阪教大　26－1　和歌山大

▽同準決勝

京都教大　18－4　奈良教大

大阪教大　30－4　奈良女大

▽同3位決定戦

奈良教大　22－7　奈良女大

▽同決勝

大阪教大　14（10－9　2－3　0－1　2－0）13　京都教大

東北は東北学院

▼第27回東北地区大学体育大会ハンドボール競技（7月・秋田）

▽準決勝

東北学院　23－7　岩手大

東北大　25－12　仙台大

▽同3位決定戦

岩手大　11－9　仙台大

▽同決勝

東北学院　29（17－4　12－7）11　東北大

関東学生秋季リーグ開幕

関東学生秋のリーグ戦が9月23日東京・駒沢屋内球技場で幕をあけた。

男子1部と女子1部は、9月に各校とも2戦を消化、10月は2、6（女）、9、12（女）、13（女）、20、23、24日のスケジュールである。

また、関西学生秋のリーグ戦も9月19日開幕した。

○……男　子……○

（審・徳前ノ水口）

	【東　軍】		得
K	小　松	（中　央）	0
	酒　谷	（金沢工大）	0
F	蒲　生	（中　央）	1
	関	（中　央）	8
	西　窪	（中　央）	3
	鈴　木	（早稲田）	6
	泉	（早稲田）	3
	金　沢	（中　央）	2
	大　西	（日　体）	0
	坪　子	（中　央）	0
	洞ケ瀬	（早稲田）	0
	谷内口	（金沢大）	0
	千　葉	（東北学院）	0
	長　野	（中　央）	0
	芳　賀	（室蘭工大）	0
計			23（PT）

	【西　軍】		得
K	木　村	（名　城）	0
	松　岡	（大体大）	0
F	生　駒	（京産大）	4
	丸　井	（大体大）	3
	北　川	（大体大）	3
	能　波	（大体大）	2
	西　上	（大体大）	1
	高　橋	（名　城）	4
	金　谷	（九産大）	1
	木　下	（大経大）	0
	谷　元	（名　城）	0
	村　上	（中　京）	0
	鈴　木	（名　城）	0
	佐々木	（大体大）	1
	北　野	（京産大）	0
計			19（PT2）

○……女　子……○

（審・村井，田島）

	【東　軍】		得
K	鍋　田	（東女体）	0
	堀　田	（日　体）	0
F	三　沢	（東女体）	1
	山　田	（東学大）	3
	水　口	（日　体）	0
	甲　斐	（東女体）	2
	岩　本	（日　体）	3
	菊　地	（東教大）	0
	山　口	（東女体）	0
	川　波	（東女体）	0
	大　隅	（東女体）	0
	磯　山	（東女体）	0
計			9（PT2）

	【西　軍】		得
K	六　車	（武庫川）	0
	滝　本	（大体大）	0
F	小　西	（武庫川）	0
	船　橋	（大体大）	1
	今　木	（中　京）	1
	芦　野	（中　京）	0
	立　川	（中京女）	0
	平　山	（大体大）	0
	鈴　木	（愛教大）	0
	佐　野	（武庫川）	1
	松　本	（大体大）	0
	福　島	（武庫川）	1
	谷	（武庫川）	0
	榎　崎	（武庫川）	1
	大　竹	（大体大）	0
計			5（PT1）

◎…学生界・さわやかな二つの便り

名門関・関OBが11人制

関西学生界の名門・関学と関大の第1回定期戦が9月5日関学グランドで行われた。

両校とも現在は一部から姿を消し、定期戦発足は現役の発奮を願うOBたちの代弁ともいえたが、この日のハイライトは11人制によるOB戦。

昭和41年度卒業以前のOBが久々にグランドをかけまわり、現役当時の気力・技術を発揮、一流プレイヤーのつちかわれた技術というものが、10年、20年では消えないことを〃実証〃した。

これには現役も感心しきり、技術、戦術面に参考となる点も多かったが、ルールの変せんがいちじるしい11人制とあって、なじんだ時代によってプレーが違い、選手も主審もとまどるなど、コートサイドは和やかな笑い声に包まれた

〔新井節男〕

▽現役戦

関　大　16（5―4、11―7）11　関　学

☆　☆　☆

『こんにちは』の一言が……

8月16日から愛知教大で開かれた「全国教育系大学リーグ戦」で、われわれ福岡教大は幸運にも優勝することができました。

今年に入ってそれまで、ずっと優勝できず2位に甘んじていただけに喜びもひとしおでした。

しかし、それ以上に感激したことがありました。

試合後のレセプションで、地元のある審判員のかたが、次のような話を披露して下さったのです。

――「私は朝、審判のために音楽の先生の車で送ってもらったのですが、駐車場に着いた時、そこでアップをしていた福岡の学生さんが我々と二人に『こんにちは』と気軽に挨拶をしてくれました。

そのあと、その音楽の先生が『スポーツマンって本当にいいですね。先生は、こんな人たちと、いつも接することができて羨しいですね』と言ってくれました。この時は、我がことのように嬉しく、その一日はすがすがしい気分ですごすことができました。一スポーツマンとして、これほどの喜びはありませんでした。福岡の皆さんありがとう」――。

我々は別に意識したわけではなく、ごく自然に出たこの『こんにちは』という挨拶のことばが、これほど人の心をうとうとは思ってもみませんでした。

スポーツを愛するもの、ハンドボールを愛するものにとって、この審判員のかたのことばは、優勝した以上に心に残りました。

〔石原秀樹・福岡教大〕

～日韓高校交流～

下関中央工、追撃及ばず

通算成績　男・日本28戦9勝3分16敗
　　　　　女・日本6戦3勝3敗

（記録のみ前号既報）第10回（女子第3回）日韓高校交流は8月21、23の両日東京・佼成女子学園高校体育館で行われ、男子は韓国ナンバー・ワンの高麗が、48年来日時と同よう日本勢を振り切って連勝女子の忠州商は星を分けた。

高麗GK李、絶妙な守り

◇男子・第1戦

高麗（韓・ソウル）19（11―1、8―7）8 日体荏原（日・東京）

○……7分近くまで両校とも互いの手の内をさぐりあっていたが、高麗は6分李泳朝のゴールを口火にして、動きの悪い相手ディフェンスをゆさぶり、PT3本を含め23分には10―0の大差。

日体の攻撃もけして悪いわけではなかったが、好機をつかんでも相手GK・李仁澈の絶妙なプレーにあってゴールを割れず、その間に失点が重なってリードを許した。

後半、日体はどうにか攻撃がまとまったが、高麗も林然徳（本誌注・48年8月にも来日）を中心にした変化攻撃をみせ、危気なかった。（坂理泰幸）

◇同・第2戦

高麗 16（10―6、6―8）14 下関中央工（日・山口）

○……試合は最初から白熱した展開となった。

両校とも、そう大柄な選手はいないが、動きがいいし、コンビネーションも絶妙だ。

前半は、高麗が林英喆の活躍で10―6と優位に立った。

特にGK李のキーピングの巧さはとても高校生とは思えないものがあった。

後半になって下関中央工の反撃が始まった。9分溝部の鮮やかなスカイプレーが口火(10―13)、16分島中のPTで13―13とするまで連続4点をあげた。

ここで下関がもうひと押しすれば完全に勝てる試合だった。高麗の動きは前半ほどのスピードがなく、疲れがみえていたのだが、下関は好機をつかみながらシュートが李の好守にはばまれ、追加点をあげられなかった。

高麗は、最後の力をふりしぼり16分20秒安(孝)、18分30秒には林然徳が決めて2点のリード。

下関は21分篠田のゴールで再び1点差となったがそこまでだった

下関は後半押しまくりながら攻めきれなかったことになるが、ここは高麗GK李のみごとな守りを賞したい。

これで日本勢は47年8月ソウルで中大付属（東京）が清涼工を16―11で破って以来、6戦2引き分け4敗と勝星がない。

来年こそは――ぜひ雪じょくの闘志を実らせてほしいと思う。

（青木敬子＝本誌編集委員）

大分東、余祐みせ快勝

◇女子・第1戦

忠州女商（韓・忠州）19（8―2、11―3）5 藤村女（日・東京）

○……2年生の時からナショナルに選ばれ活躍している李京姫（168cm、59K）をエースにもつ忠州は迫力のある攻撃で藤村の守備陣を競い、立ちあがりから主導権を握った。

藤村もなんとか食い下ろうとするのだが、忠州は守りの面でも当りの強さをみせてスキがなく、ほとんど一方的な経過といってよかった。（坂理）

◇同・第2戦

大分東（日・大分）15（8―4、7―6）10 忠州女商

○……スローオフ直前「のんびり行こうや」と声をかけた藤原泰郎監督の指示(?)どおり、大分東は余裕たっぷりに忠州を破った。

互角の序盤から、優劣がのぞきはじめたのは、サイド攻撃に対する守りの巧さ、拙さだった。

忠州の左右からの攻めこみを、大分東がFPの好マークとGK大平の堅守で防ぎ切ったのに対し、忠州ディフェンスは、中央の守りに気を配りすぎ右サイドがノーマーク。そこを大分東は北山が巧みについて16分6―3。

忠州がサイドを固めると、こんどは左右45度に陣どる菅本姉妹が鋭いシュートを9m地点から射ちこんで点差をあけた。

後半も大分東は那須の独走など随所に好プレーをみせて加点した

忠州は、相手の固い守りを崩すだけの組織攻撃がない。終盤、李京姫の個人技で、二桁の失点を許したことのない大分東から10点をとったのが慰めであった。（杉山）

（個人記録は本誌前号27頁をごらん下さい）

来年から単独交流か　9年間(8回)にわたる日本体協・大韓体育会の日韓高校交流は今回が最終となり、来年以降は各競技ごとの意向による。ハンドボールは日本側の態度が未定だが、結局は韓国側の存続希望を受け入れることになりそうだ。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

友情深めた乗鞍少年団大会

林　正信
（日本協会普及指導部「小学部サークル」リーダー）

八月四日から六日まで、岐阜県高山市の国立乗鞍青年の家で、「全国ハンドボール少年団大会」が開かれた。

参加者は、岐阜・愛知両県から五団体、児童(男女)、父兄合わせて百二十六名であった。

よく耳にする「小学生の全国大会は時期尚早ではないか」という声も、この大会に参加した限りでは、全く感じられなかった。

「とにかく、ハンドボールを行っている小学生は集まろう。そして、楽しく交歓しようじゃないか」と呼びかけてくださった岐阜県ハンドボール協会の関係各位に感謝したい。

この大会が、試合中心ではなく子供達の友情を深める交歓大会であったことが、とてもよかったことだと思っている。

来年度は、豊中市(大阪)、石川県、富山県、兵庫県、熊本県、高山市(岐阜)等のハンドボール少年団も参加できそうだとのこと、次回の開催が待ち遠しい。

私達が行っている愛知県ハンドボール教室の来年度、会員募集要項には、「六年生児童は、全員、全国ハンドボール少年団大会に参加」ということばを入れようと思っている。

いつまでも、この大会が、子供達の友情を深めることを第一の目的と考え、発展していくことと、ハンドボールの輪が、全国に広がっていくことを強く願うものである。

○……主な行事(日課)…○

◇第1日（8月4日）13時30分集合、19時研修、19時30分交歓会、

◇第2日（5日）9時交流試合・技術指導・模範演技・野外活動、13時午前中と同内容、19時30分キャンプファイヤー

◇第3日（6日）9時別れのつどい、10時15分閉会式

男女128名が参加

全国教員養成大研修会

3回目を迎えた全国教員養成大学ハンドボール研修会が、文部省と日本体協の後援をうけて8月12日から15日までの4日間、東京・青少年総合センターで行われた。

参加したのは全国から男子6校48名、女子5校32名のあわせて80名（このほかに補助役員を兼ねて筑波大学男女48名が参加）で、多彩なプログラムに成果をあげた。

特に、第3日(14日)に行われたモントリオールオリンピック男子コーチ・東嘉仲氏の講演は、大会後二週あまりとあって生々しく、世界の動向と日本の現状をからみあわせ、研修生の興味をひいた。

また、攻防技術の基本技指導の解説、実習や、「モティベーションエクササイズ」（楽しみながらの体力づくりトレーニング）の指導が例年同よう好評を得た。

このほか、的場益雄氏（全日本教職員連副会長）の講演「ハンドボールの史的展開について」、審判技術の解説、指導が行われ、リーグ戦形式の模範ゲームでは、男・天理大(関西)、女・山口大(中四国)が他校をおさえて全勝、拍手をあびた。

16、17日に普及指導部総会

日本協会普及指導部は10月16、17の両日東京で今年度初の全国委員会（総会）を開く。クラブ、年少対策などの課題解決にどのような策が打ち出されるか注目が集められている。

16日午後には「土曜の集い」の見学も行われる予定。

ハンドボール・タウン

16日に土曜の集い　10月の土曜の集い（日本協会主催）は16日午後5時から7時まで東京・青少年総合センターです。参加費一人百円。同センターの電話は03ー四六七ー七二〇一、日本協会は03ー四六七ー七〇九七です。

楽しかった3日間
〜続・参加者作文〜

第三日め、山を降りて十五分ほど行ったところの学校で、雨で流れた二日目の予定だった交流試合が行われた。

わたしたちは、二回とも笠松ハンドボール少年団と試合をした。みんな、あせだくになり、かわいたのどから、かけ声をかけ、チームワークをとりながら戦った。

一回戦で、はりきりすぎたのか二回戦では少しリードをとらたりれしたが、後半とりもどし7点もの差で勝った。わたしは勝ったことも、もちろんうれしかったが、それ以上にうれしかったのは、すばらしい環境の中で、知らない人と、仲よく試合をし、そして友だちになれたことだった。

宿舎の青年の家は、雄大な自然に囲まれ、空気もすみ、わたしたちに規律正しい生活と、友情の大切さをおしえてくれた。

このような大会が毎年開かれ、もっともっと大きくなるとよいと思った。（寺本秀子・愛知県小学生ハンドボール教室）

◇

ぼくにとって、乗鞍青年の家での生活は、楽しいことや、うれしいことがいっぱいありました。なかでも、他の県から来た人たちと友達になれたことがいちばんうれしかったです。ろうかなどで、知らない人に出会っても「おはよう」、「おやすみなさい。」と言ってくれるので、とてもいい感じがしました。

その他では、「キャンドルサービス」が楽しかったのです。「オブラディ・オブラダ」に合わせておどったり、歌に合わせて、となりの人と自分の足をたたいたりしました。そして最後には、みんなに小さなローソクを配って、歌を歌いました。

交流試合は、二日目に行う予定だったけど雨が降ったので三日目に延期しました。愛知県ハンドボール教室の男子は、第二試合は豊橋に敗けましたが、第一、第三試合は勝ちました。試合後の閉会式のときには、いろいろな人とあく手をしました。

二泊三日の短い間だったけどとても楽しい三日間でした。

（河野　功・愛知県小学生ハンドボール教室）

男子は青森ク初優勝

東北ミニ国体

第3回東北総合体育大会（東北ミニ国体）ハンドボール競技は9月11日から13日までの3日間、仙台の東北工業大学体育館と宮城二女高校体育館で、佐賀国体の東北予選を兼ねて行われた。

第29回東北選手権と併せて行った注目の成年は、男子が青森クの初優勝、女子は予想どおり東北ムネカタ（福島）が日本リーグの貫録をみせて5年連続優勝した。

▽成年男子・一般予選リーグA組

SGク（福島） 17―10 山形ク（山形）

下北手ク（秋田） 18―17 山形ク

SGク 17―11 下北手ク

▽同B組

育英ク（宮城） 24―13 青森ク（青森）

青森ク 18―13 盛岡商友会（岩手）

育英ク 25―16 盛岡商友会

▽同決勝トーナメント1回戦

青森ク 18（7―9、11―8）17 SGク

下北手ク 19（8―12、11―6）18 育英ク

▽同3位決定戦

SGク 15（8―6、7―6）12 育英ク

▽同決勝

青森ク 17（9―7、8―7）14 下北手ク

▽同女子1回戦（1試合）

全岩手 16（9―4、7―4）8 あすなろク（青森）

▽同準決勝

東北ムネカタ（福島） 12（8―4、4―6）10 全岩手

全和洋（秋田） 18（9―6、9―3）9 全宮城

▽同決勝

東北ムネカタ 17（7―4、10―3）7 全和洋

▽教員（男子）1回戦（2試合）

宮城 19（7―7、12―11）18 秋田

青森 23（10―9、13―9）18 山形

▽同準決勝

宮城 23（10―12、13―7）19 福島

岩手 50（25―6、25―4）10 青森

▽同決勝

岩手 27（14―2、13―12）14 宮城

▽少年男子1回戦（2試合）

全福島高校選抜 16（7―5、9―6）11 全山形高校選抜

青森県選抜 20（8―4、12―6）10 全岩手高校選抜

▽同準決勝

全宮城高校選抜 17（10―8、7―8）16 青森県選抜

全福島高校選抜 13（6―5、7―7）12 大曲農高（秋田）

▽同決勝

全福島高校選抜 16（8―4、8―2）6 全宮城高校選抜

▽少年女子1回戦（2試合）

花巻南高（岩手） 9（3―5、6―2）7 全山形高校選抜

涌谷高（宮城） 14（8―5、6―3）8 青森県選抜

▽同準決勝

和洋女高（秋田） 8（1―2、7―3）5 花巻南高

涌谷高 8（7―3、1―4）7 全福島高校選抜

▽同決勝

和洋女高 6（3―2、3―1）3 涌谷高

▽県別得点 ①福島25＝3連勝 ②秋田22 ③宮城21・5

ブロック高校選手権

▼第25回四国（7月・徳島城北高）

▽男子1回戦

土佐（高知） 15―14 池田（徳島）

新居浜工（愛媛） 12―10 高松工芸（香川）

三本松（香川） 12―9 追手前（高知）

宇和島南（愛媛） 29―3 徳島東工（徳島）

▽同準決勝

三本松 16―15 宇和島南

新居浜工 18―10 土佐

▽同決勝

新居浜工 13（8―1、5―7）8 三本松

新居浜工は2年ぶり21度目の優勝

▽女子1回戦

松山西（愛媛） 10―5 三本松（香川）

新居浜市商（愛媛） 14―2 辻（徳島）

中村（高知） 8―4 池田（徳島）

城山（高知） 9―8 高松（香川）

▽同準決勝

新居浜市商 16―3 城山

松山西 17―5 中村

▽同決勝

新居浜市 7（6―2、1―1）3 松山西

新居浜商は3年連続9度目の優勝

ブロック中学生大会

◆第5回関東（7月・千葉県新日鉄君津体育館）

▽男子1回戦

昭島スポーツ少年団（東京） 20（13―3、7―6）9 足利チーム（栃木）

蓮田（埼玉） 11（4―3、7―5）8 左近山（神奈川）

柏三（千葉） 18（11―8、7―6）14 手賀（千葉）

結城（茨城） 24（12―4、12―3）7 北東（山梨）

▽同準決勝

昭島スポーツ少年団 14（5―3、9―9）12 蓮田

結城 18（8―7、10―6）13 柏二

▽同決勝

昭島スポーツ少年団 13（7―3、6―5）8 結城

昭島スポーツ少年団は初優勝

▽女子1回戦

山梨北（山梨） 7（2―4、5―2）6 柏三（千葉）

玉造（茨城） 8（6―3、2―0）3 昭島スポーツ少年団（東京）

片岡（群馬） 7（2―2、5―4）6 八潮（埼玉）

大平（栃木） 7（4―2、3―5：0―0、0―0）7 蒔田（神奈川）

PTコンテスト2―1で大平の勝ち

▽同準決勝

玉造 5（4―2、1―0）2 山梨北

大平 17（6―1、11―2）3 片岡

▽同決勝

玉造 14（9―2、5―4）6 大平

玉造は3年連続優勝

徳山クが韓国遠征　中国地区の強豪・徳山ク（山口）が11月20日から24日まで韓国へ遠征、金浦、釜山で地元チームと2試合を行う。一行は宮本昌治団長ら役員5、選手12。

台湾チームが来日　台湾選手権で3連勝している板橋樹林中学（日本の高校にあたる）を主力とした台湾男子チームが7月24日来日、熊本県本渡市や埼玉県三芳町などで地元クラブと合同練習交歓試合を行った。

各地の記録

大阪市が2年ぶり5度目

第14回5大都市ハンドボール大会（男子のみ）は、7月17、18の両日、横浜市で行われ、実業団選手を主力にした大阪市が4戦全勝2年ぶり5度目の優勝を飾った。

横浜 20（13－8　7－4）12 京都
大阪 20（10－5　10－5）10 名古屋
神戸 27（12－6　15－12）18 横浜
名古屋 13（6－5　7－5）10 京都
大阪 24（8－8　24－1）9 神戸
名古屋 20（11－7　9－8）15 横浜
京都 16（9－8　7－6）14 神戸
大阪 14（6－3　8－3）6 横浜
名古屋 18（9－4　9－9）13 神戸
大阪 15（6－6　9－6）12 京都
【順位】①大阪4戦全勝②名古屋3勝1敗③京都・神戸・横浜1勝3敗

三景、ビクターが連勝

第23回関東選手権は8月28、29日東京の青山学院体育館などで各県予選勝者男女各8チームにより行われた。

男子は、緒戦で三景（東京）と大崎電気（埼玉）がつぶし合い、ここを切り抜けた三景が、全神奈川を前年同よう決勝で降し3年連続4度目の優勝を遂げた。

女子は予想どおり実業団がベストフォアを占め、日本ビクター（茨城）が安定したチーム力で2年連続3度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦
全神奈川 20（10－2　10－4）6 自衛隊勝田（茨城）
海上下総（千葉）18（6－3　12－5）8 甘楽ク（群馬）
三景（東京）13（6－7　7－4）11 大崎電気（埼玉）
AOK栃木（栃木）14（9－5　5－6）11 塩山ク（山梨）
▽同準決勝
全神奈川 14（7－1　7－8）9 海上下総
三景 27（16－5　11－8）13 AOK栃木
▽同決勝
三景 28（11－8　17－11）19 全神奈川
▽女子1回戦
日立栃木（栃木）28（14－5　14－2）7 全神奈川
東京重機（東京）29（9－0　20－2）2 塩山女子ク（山梨）
日本ビクター（茨城）43（21－4　22－2）6 前橋ピジョンズ（群馬）
大崎電気（埼玉）14（7－2　7－0）2 水郷ク（千葉）
▽同準決勝
東京重機 12（4－3　8－3）6 日立栃木
日本ビクター 15（9－1　6－4）5 大崎電気
▽同決勝
日本ビクター 14（7－2　7－0）9 東京重機

大同製鋼久々に勝つ

第28回東海選手権は8月28、29の両日名古屋の愛知県体育館に4県の予選勝者が集まり行われた。

男子（リーグ）は、3年連続全日本の3冠王を飾りながら、この大会では2年つづけて本田技研鈴鹿（三重）に敗れている大同製鋼（愛知）の試合ぶりに関心が集まったが、乱戦の末久々に制勝、3年ぶり3度目の優勝を遂げた。

女子（トーナメント）は、予想どおりジャスコ（三重）×ブラザー工業（愛知）が決勝で激突、ジャスコが辛勝、初優勝した。

▽男子リーグ
本田技研鈴鹿（三重）45（20－7　25－4）11 二和家具（岐阜）
大同製鋼（愛知）51（30－4　21－3）7 浜南ク（静岡）
本田技研鈴鹿 33（17－6　16－8）14 浜南ク
大同製鋼 46（22－6　24－10）16 二和家具
大同製鋼 26（16－12　10－9）21 本田技研鈴鹿
【順位】①大同製鋼②本田技研鈴鹿③浜南ク・二和家具
＜注＞浜南ク×二和家具戦は行わず
▽女子1回戦（＝準決勝）
ブラザー工業（愛知）27（15－0　12－3）3 三洋電機（岐阜）
ジャスコ（三重）18（8－3　10－1）4 城北ク（静岡）
▽同決勝
ジャスコ 9（4－3　5－4）7 ブラザー工業

函館有斗クいぜん強味

第6回北海道クラブ選手権は8月28、29の両日札幌中島センターに男子10、女子3チームが集まり行われ、男子は函館有斗クが3連勝（有斗OBとしての優勝を加えると6連勝）、女子は室蘭OGクが2連勝した。

▽男子1回戦（2試合）
函館有斗ク 24－14 室蘭東ク
第七師団ク 26－11 翔球ク
▽同準々決勝
函館有斗ク 28－11 釧路ク
札幌ク 15－9 志峰ク
函館大谷ク 26－9 登別大谷ク
室蘭清水丘OB 18－16 第七師団ク
▽同準決勝
函館有斗ク 15（8－4　7－8）12 札幌ク
函館大谷ク 18（12－6　6－9）15 室蘭清水丘OB
▽同決勝
函館有斗ク 20（10－8　10－5）13 函館大谷ク
▽女子1回戦（1試合）
室蘭OGク 7（3－0　4－2）2 函館商門ク
▽同決勝
室蘭OGク 15（10－6　5－5）11 函館女商ク

▼第29回福島県総体ハンドボール競技（8月・聖光学院）
▽一般男子選手権リーグ
安積高OB 23－14 福島大
福島教員 32－11 安積高OB
福島教員 24－19 福島大
【順位】①福島教員②安積高OB③福島大
▽同女子決勝（1試合）
東北ムネカタ 17（7－1　10－5）6 長沼OG

▼茨城県一般選手権秋季大会（9月・茨城大）
▽男子準々決勝
千代田ク 15－4 自衛隊土浦
土浦三高ク 10－7 茨城大
自衛隊勝田 14－7 竜ケ崎ク
原子力研究所 18－11 常陽銀行
▽同準決勝
自衛隊勝田 16－4 千代田ク
原子力研究所 24－11 土浦三高ク
▽同決勝
自衛隊勝田 19（10－6　9－6）12 原子力研究所
▽女子決勝
茨城大 10（6－2　4－1）3 水戸ク

佐賀国体県予選（到着順）

◇茨城

▽成年男子1回戦（3試合）

常陽銀行 22—12 鹿島石油

原子力研究所10—12自衛隊霞ケ浦

日立製作所15—12 自衛隊古河

▽同準決勝

自衛隊勝田23—6 常陽銀行

原子力研究所25—9 日立製作所

▽同決勝

自衛隊勝田19—16原子力研究所

◇石川

▽成年男子1回戦（2試合）

小松ク 22—15 小松製作所

県工ク 24—14 七尾ク

▽同準決勝

金沢市役所25—13 小松ク

あすなろク15—12 県工ク

▽同決勝

金沢市役所 19（7—1 12—4）5 あすなろク

▽少年男子（選手選考会）準々決勝

小松商高 14—4 泉ケ丘高

二水高 14—9 星稜高

県工高 17—13 北陸大谷高

小松工高 13—10 寺井高

▽同準決勝

小松商高 12—11 二水高

小松工高 17—10 県工高

▽同決勝

小松工高 21—14 小松商高

▽少年女子1回戦（3試合）

小松商高 4—2 短大高

松任高 9—8 星稜高

北陸大谷高23—2 金沢商高

▽同準決勝

小松市女高26—0 小松商高

北陸大谷高10—4 松任高

▽同決勝

小松市女高19—5 北陸大谷高

◇鳥取

▽少年男子1回戦（2試合）

米子高専 16（延）12 倉吉産業高

倉吉東高 15—7 米子東高

▽同準決勝

境港工高 28—6 米子高専

倉吉東高 19—8 倉吉工高

▽同決勝

境港工高 15—10 倉吉東高

▽少年女子1回戦（1試合）

倉吉西高 8—3 倉吉産業高

▽同決勝

米子南高 10—6 倉吉西高

◇大分

▽成年男子決勝リーグ

新日鉄大分27—21 日吉会

鶴秀会ク 27—23 日吉会

新日鉄大分30—27 鶴秀会ク

【順位】①新日鉄大分②鶴秀会ク③日吉会

◇山口（第2次選手選考会）

▽成年男子準々決勝

徳山ク 38—15 田原外郎

出光徳山 27—25 興亜石油

下関ク 48—11 岩国ク

三井石油 22—18 武田薬品

▽同準決勝

徳山ク 30—16 出光徳山

下関ク 15—11 三井石油

▽同決勝

徳山ク 12—11 下関ク

▽少年男子準々決勝

下関中央工31—4 高水高

岩国工高 19—13 徳山高

岩国高 24—4 宇部工高

徳山工高 23—19 下松工高

▽同準決勝

下関中央工19—13 岩国工高

岩国高 19—13 徳山工高

▽同決勝

下関中央工22—14 岩国高

▽少年女子準々決勝

山口選抜 22—7 高水高

岩国商高 16—4 下関西高

徳山高 7—6 美禰中央高

田部高 15—6 徳山商高

▽同準決勝

山口選抜 11—6 岩国商高

田部高 10—2 徳山高

▽同決勝

山口選抜 14—5 田部高

◇愛媛

▽成年男子準決勝

丸善石油 27—12 松山ク

住友化学菊本28—11 新居浜ク

▽同決勝

丸善石油 14—11 住友化学菊本

▽少年男子決勝リーグ

新居浜工高21—5 南予選抜

新居浜工高23—5 中予選抜

南予選抜 15—10 中予選抜

【順位】①新居浜工高②南予選抜③中予選抜

▽少年女子選手選考決勝リーグ

中予選抜 18—2 新居浜商高

中予選抜 16—6 大島高

新居浜商高11—7 大島高

◇福島

▽成年男子準決勝

SGク 35—8 いわきク

岩農ク 24—14 本陣ク

▽同決勝

SGク 33—17 岩農ク

▽少年男子準決勝

郡山西工高19—14 安積高

学法石川高22—4 聖光学院高

▽同決勝

学法石川高22—10 郡山西工高

▽少年女子準決勝

緑が丘高 20—3 日本女工高

郡山女高 9—4 福島女高

▽同決勝

郡山女高 8（延）7 緑が丘高

住友化学菊本（愛媛）19年連続出場成らず

国体成年男子（一般）の愛媛県予選で住友化学菊本が丸善石油松山に敗れ、昭和33年の富山国体（氷見市）以来18年間にわたる連続出場記録に終止符を打った。

国体の連続出場記録としては高校男子における新居浜工（愛媛）の19年間（第9〜第27回）が最高で今年、住友が勝てばタイになるところだった。一般では大阪クの16年間（第2〜第17回）というそれまでのレコードを住友が一昨年破っている。

住友化学菊本は、三菱レイヨン大竹（広島）につぐ男子実業団の古豪、実力的にも永く実業団界のトップにあり、昭和37、38、42、43年には全日本実業団選手権2位46年の全国実業団トーナメントでは優勝を飾っている。

近年、会社側の事情で新戦力の補強が思うにまかせなかったもの の、日本リーグ発足にあたっては第4ランクに推されるなどしており、今回の敗退は大波乱といってよい。

このほか、今秋は15年連続出場の氷見ク（富山）、9年連続出場の福井教員も北信越予選で敗れている。

これで10年以上の連続出場記録を続けるチームは大崎電気（埼玉）の17年間（第15回〜）、全神奈川の12年間（第20回〜）、AOK栃木の11年間（第21回〜）など成年男子（一般）の関東勢だけになった。

都道府県の連続出場としては成年男子（一般）で大阪府が第2回以来（昭22）という快記録を進行中。

日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第一四六号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和五一年九月二十五日印刷　昭和五一年十月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　大代表(467)三一一一
振替　東京五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価二百八十円（年間購読料二千七百円）